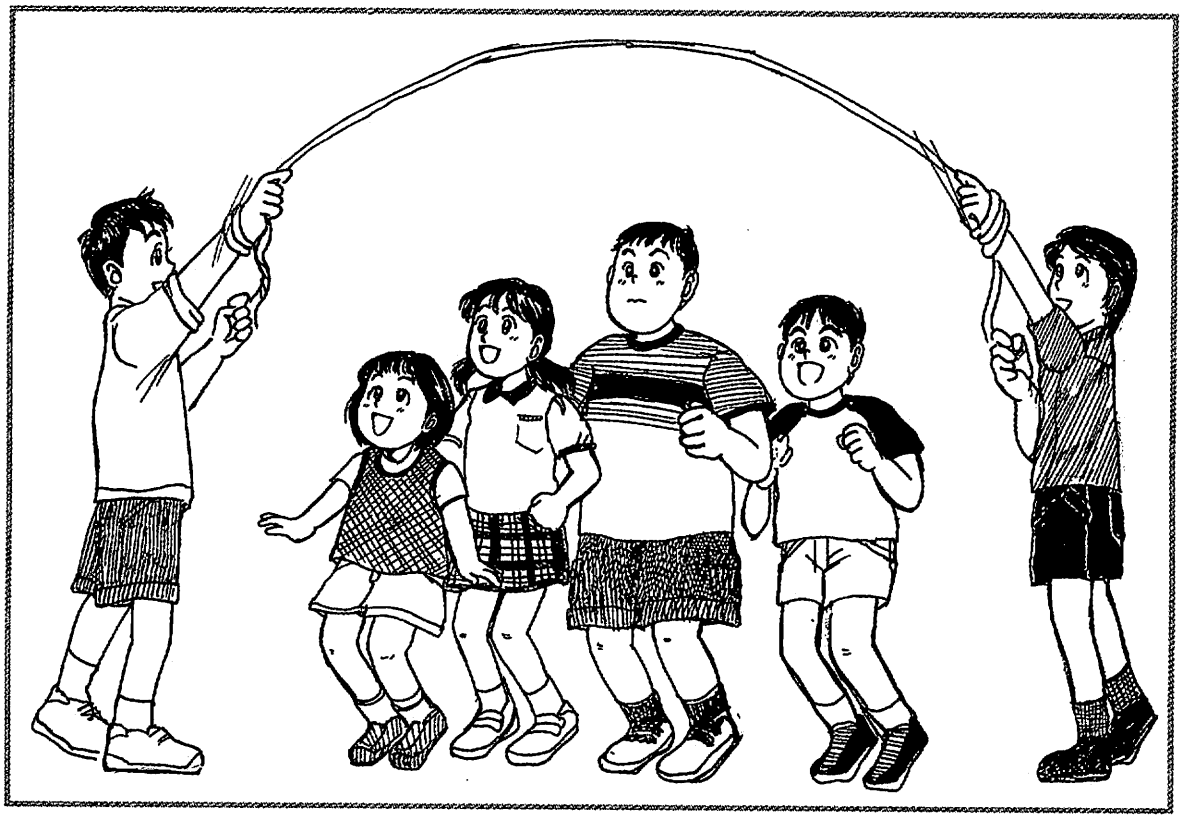
学年・学級経営ハンドブック

—第Ⅲ版—



東京都小学校学級経営研究会

学年・学級経営ハンドブック　第3版　発行によせて

平成17年度に初版が発行されたこのハンドブックも第3版を発行することになりました。この間、初版また一部加筆された第2版（平成19年度発行）も多くの方に読みつがれ、とても役に立つと好評を博しています。

今年度（平成20年度）、東京都学級経営研究会としてこのハンドブックを改めて読み直し、夏季研究会のミニ講座の際もその一部を活用しました。そして、学級経営の基本が書き込まれているこの本をもっと普及し、少しでも学級経営について悩んでいる、より深く知りたい・わかりたいと思っている先生方のお役にたてたらよいのではと考えました。そこで、現在、特に学級経営を行う上で課題になっている『特別に配慮や支援を要する児童を学級の中で育てる』の内容を新たに章として起こし、全部で6章だてとしたものを、第3版として発行することとしました。

どの章も学級経営を行う上での基礎基本がきっちり書き込まれているこの本を手元に置き、大いに活用していただければ幸いです。特に『子ども一人一人が輝く学年・学級経営10の秘訣』は、学級経営を行う上で、常に心に留めておきたい10か条だと考えます。週の指導計画やノートに貼っておきいつでも目に触れるようにしておきたいものです。もう一つ学級経営を行う上で心に留めていただきたいことばがあるので紹介します。私がある方から教えていただいてから、常に子どもに接する上で呪文のように唱えているものです。

子どもに接する時、結果を性急に求めすぎたりせず、子どもの可能性を信じ、子どもにゆったり向かうことが大切だと思わせてくれる言葉ではないでしょうか。

同じ失敗を繰り返すのが子ども
言ってもなかなかわからないのが子ども
自分本位でしか考えられないのが子ども
すぐ忘れてしまうのが子ども

でも、子どもは、
認められたがっているのです。
学びたがっているのです。
伸びたがっているのです

平成20年度　東京都小学校学級経営研究会会長　丸山　久美子

はじめに

どんなに時代が変わっても、教育に携わる者にとって、子どもたちの笑顔と輝く瞳ほど嬉しいものはありません。それは、新しく先生になった人もベテランの先生でも共通のものだと思います。そして、学習指導要領の総則に書かれている「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」に向かって一人一人が力を注いでいます。

第３２回、全国学級経営研究大会、第３８回東京都小学校学級経営研究大会が、練馬区立石神井東小学校を会場として開催の運びとなりました。ここ東京で開催されるのを機会に「学年・学級ハンドブック」を作成して、全国から来てくださった方々に少しでも学年・学級経営の参考にしていただければと考えました。

編集委員が集まった最初の会で、「なぜ今ハンドブックなのか？」を話し合いました。　・自己流に陥らないために　・勇気をえるため　・明日の活力のため　・初任者のために　・アドバイスのよりどころのため　・学級経営の見直しをするため　・学校・学年・学級経営のため　・１年間の構想図を描いて学級経営をするため　・教師が変わるため　・教師の後ろ姿で子どもが育つため　・悩んでいる時のヒントなど様々な意見が出ました。

内容についても、学級担任の一日から危機管理まで多岐に渡っていました。都学級経営部員の有志が率直に語り合う中で、今回は、誰でも簡単に活用できることをねらいにそれぞれの体験やアイディアをもちよることにしました。

２００７年度問題は教育界も例外ではありません。ベテランと新しく教師になられる方との引継ぎが大きな問題になっていますが、この冊子を作成することが、その掛け橋のひとつになれば幸いです。志と実践家としての技術を交換し合いながら、広い視野と自分に対する自信をもって、未来を担う子どもたちを導いていける教師を共に目指していきましょう。

平成１７年１１月

「学年・学級経営ハンドブック」編集委員会
委員長　　野　崎　佳　子

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
子ども一人一人が輝く学年・学級経営１０の秘訣・・ 4

第１章　子どもとともに創る学級

Ⅰ　これだけは押さえたい･･･学級の基礎づくり
１．朝・・・・・・・・・・・・・・ 5
２．学習・・・・・・・・・・・・・ 6
３．生活・・・・・・・・・・・・・ 8
４．放課後・・・・・・・・・・・・12
５．教室の環境づくり・・・・・14

Ⅱ　仲間の絆を深めるために
１．クラスのために働く係・・・16
２．イベント・・・・・・・・・・・18
３．集団遊び・・・・・・・・・・・19

第２章　学校のみんなとともに創る学級

Ⅰ　学校行事を通して学級づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・22
Ⅱ　縦割り班活動・異学年活動を通しての学級づくり・・・・・24
Ⅲ　学校・学年の協力体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
Ⅳ　新規採用の先生へ
１．指導教員から新規採用教員へ・30
２．学級事務の効率的な方法・・・31

第３章　保護者とともに創る学級

Ⅰ　来てよかった保護者会に・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
Ⅱ　家庭訪問・個人面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
Ⅲ　学年・学級だよりにひと工夫・・・・・・・・・・・・・・・・40
Ⅳ　新たな学びを～保護者・地域の教育力を生かして～・・・・42

第４章　特別に配慮や支援を要する児童を学級の中で育てる

Ⅰ　特別支援教育とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
Ⅱ　教室でできる配慮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
　・連携の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

第５章　学級経営で悩んだとき　Ｑ＆Ａ

Ⅰ　Ｑ＆Ａコーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
Ⅱ　学級経営で悩んだとき～座談会「今だから言える話」～・60

第６章　私のアイディア

Ⅰ　授業で使えるアイディア
　１．授業をスムーズにスタートさせたい時・・・・・・65
　２．家庭学習の励まし方・児童名表示の工夫・・・・・66
　　離れていた時間を共有するために
Ⅱ　生活指導で使えるアイディア
　１．セルフコントロールの力をつける「テレパシー」・・・67
　２．気持ちを内に向けさせる言葉「どこがムカつくの」・・68

コラム

コラム１　ゆとりのある学校、こころを育てる学校に
コラム２　Ｓさんとチャレンジノート
コラム３　子どもの可能性の無限さにただ感動・・・
コラム４　この半年を振り返って
コラム５　教師って・・・？
コラム６　卒業生からのメール
コラム７　子どもの見方･考え方の改革を！

学年・学級経営ハンドブック編集委員会・・・70
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

子ども一人一人が輝く 学年・学級経営10の秘訣

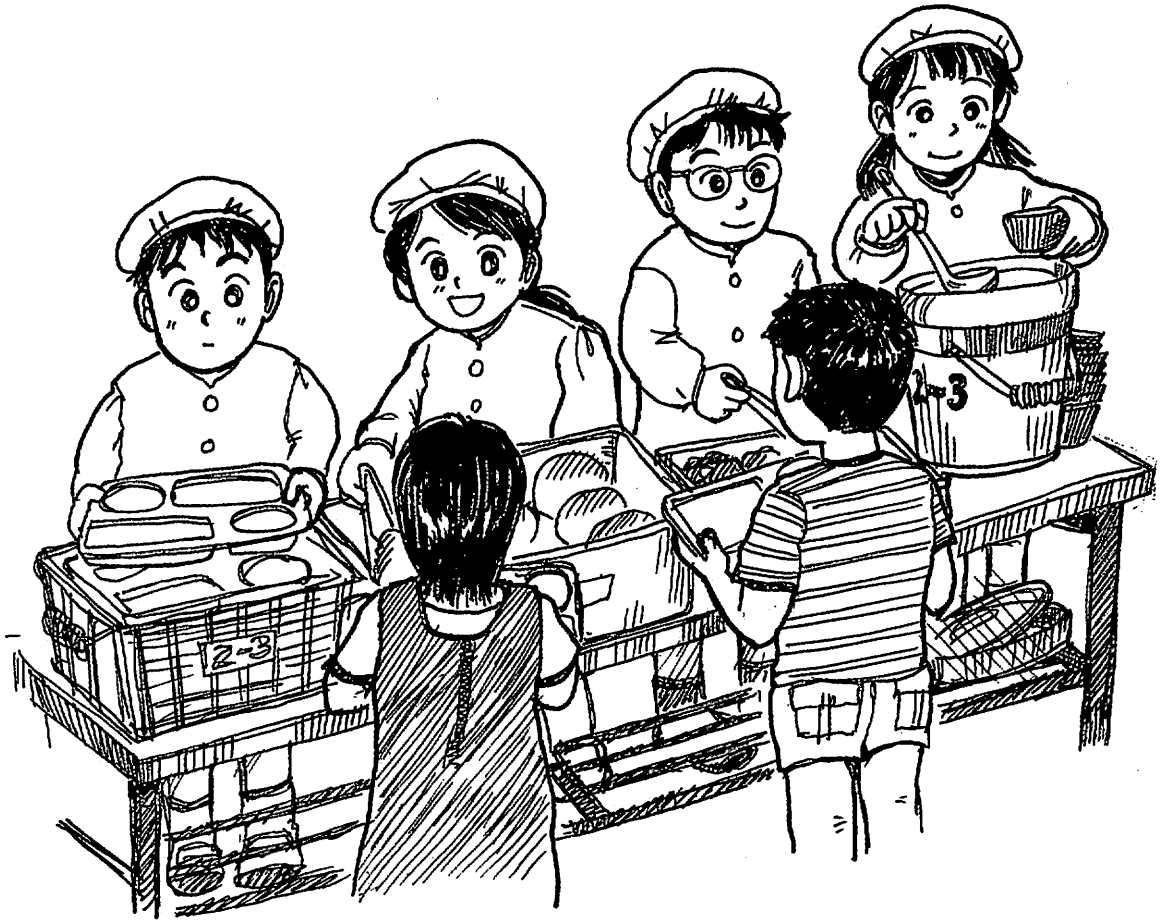
一、どの子にもよさがある。プラス思考で。
二、学年・学級経営もＰＤＣＡサイクルで取り組もう。
三、一人で抱え込まない。組織で対応しよう。
四、環境は人を創る。教室環境を工夫しよう
五、教室は学ぶところ、癒すところ。
六、継続は力なり。
七、記憶より記録をしよう。
八、苦手な保護者ほど笑顔で話そう。
九、聞き上手、話し上手になろう。
十、結果より努力を誉めよう。

ＰＤＣＡサイクル

Ｐｌａｎ	（計画）
Ｄｏ	（実践）
Ｃｈｅｃｋ	（評価）
Ａｃｔｉｏｎ	（改善）

第１章

子どもとともに創る学級



第１章　子どもとともに創る学級

Ⅰ　これだけは押さえたい・・・学級の基礎づくり

学級担任になったら

はじめに　これだけはおさえたい

１．朝

子どもが来る前に

・子どもの登校前に、窓を開けて空気を入れかえ、「黒板をきれいにする」「教室のゴミをとる。」等、気持ちよく学習できる環境を整えておく。

笑顔で挨拶をしよう

・「おはよう」と笑顔と元気な挨拶で子どもたちを迎え、さわやかに１日をスタートさせる。

朝の会

朝の会の例

◇出席確認と健康調べ

「欠席の人はいませんか。」「〇〇さんが、□□で欠席です。」

「健康調べをします。」「〇〇さん」「はい、元気です。」

・　教師が一人一人の子どもの健康状態を把握する。

・　子ども自身や子どもたち同士がそれぞれの健康状態を確認する。

◇子どもたちが１日を気持ちよく、楽しくスタートするためのプログラム

・「スピーチ」…昨日のこと　今日の自分のめあて　身近なニュース　クイズ　テーマに沿って

・「詩の暗唱・朗読」

・「合唱」〈クラスの歌を作って歌う。今月（今週）の歌等〉

◇係から

◇先生の話・お知らせ

・連絡・配布物の説明・生活について

・季節や行事の話・ニュースの話等

•司会は輪番で子どもたちが担当。（１年生は、初めは先生、次に希望する子どもたち、そして輪番、というように徐々に子どもたちの登場場面を増やす。）

•日によって曜日によって内容を変える等、クラスの実態に合わせて工夫したり、子どもたちの意見からプログラムをさらに楽しくしたりしていくとよい。

2．学習

（1）授業の始まり方、終わり方～静かにさせるこつ～

・チャイムの合図で着席し（教室に戻り）、時間を守って学習を始められるように態勢作りをする。

・なかなか席に着けない時や静かにならない時は、「何分までに席につこう」「1，2，3、4（しっ）で口を閉じよう」「カウントダウン　3、2、1」等と目標や合言葉を決め、できたら大いにほめる。

・始めの挨拶、終わりの挨拶をして、けじめをつける。

「これから、○時間目の○○の授業を始めます。」

「これで、○時間目の○○の授業を終わります。」

（2）授業中のルール（掲示物の例）

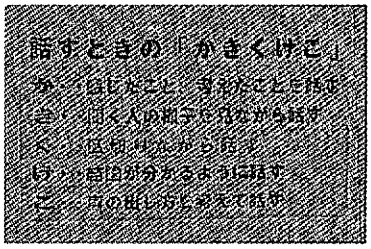
聞き方の掲示

聞き方　あいうえお

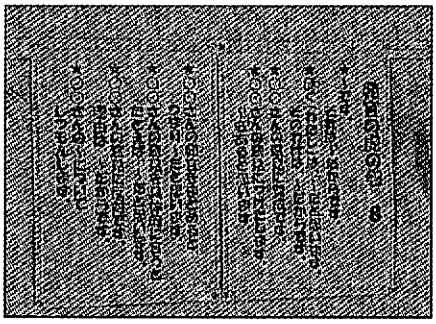
あ　あいての目を見て
い　いつでも、どこでも
う　なずきながら
え　えーっと言わずに
お　おわりまで聞く

話し方の約束

話し方　かきくけこ

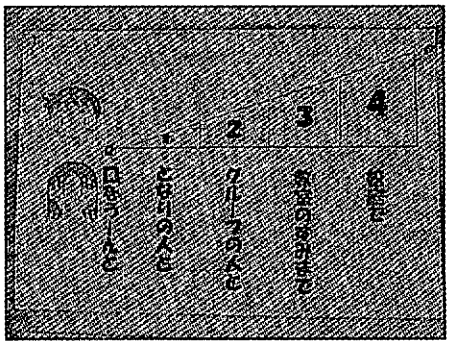


発言の虎の巻

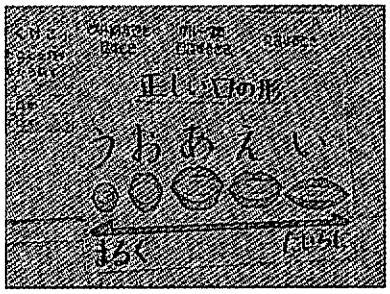


声のものさし

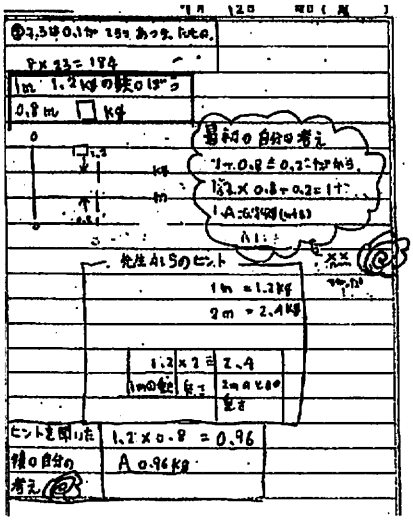
［低学年用］



［中学年用］



口のあけ方



考えた足跡がわかるノート例

書き方

- よい姿勢で、鉛筆の持ち方にも注意しながら書く。
- 机の上のノート・教科書等の配置も考えながら書く。
- ノート指導

　丁寧な字で書く。（文字の大きさ・鉛筆の濃さ等にも留意させる。）

　日づけ・学習内容等を書く。

　ノートの無駄使いをしない。

その他

- 授業が終わったら、次時の授業の準備をする。
- 机の中、ロッカーの中などは使いやすいように整理整頓する。

　・時間割の順に教科書やノートを重ね、終わったものは一番下に入れる。

　（机の中やロッカーの整理の仕方を絵に描いて貼っておく。）

３．生活

（１）休み時間に先生は何をするの？

一緒に遊ぼう

子どもたちが楽しみにしている休み時間。授業時間が延びて休み時間がなくなってしまうようなことがないように、教師は十分気をつける。

休み時間はやはり、遊びが中心。教師もがき大将気分で子どもたちを引き込み、遊びを楽しみたい。そして、次第に子どもたちがリーダーとして活動できるようにする。

子どもたちの人間関係を作る手助けをしよう。

学級の中には自分から声をかけられなかったり、体を動かすことが嫌いという子がいるかもしれないが、子ども同士の交流を深めたり、ルール作りを学んだりするのに欠かせない時間である。できる限り子どもたちを触れ合わせたい。また、いつでも一人でいたり、一緒にいるメンバーが替わっていたりする等、子どもたちの人間関係の変化をしっかりと見取り、問題の早期発見をしていくことも大切である。

◇１～２週間に１回くらい、学級全体で遊ぶ会を作る。

・みんなでできる遊びをする。（ドッジボール・鬼ごっこ等）

◇遊びたい人、この指止まれ。（指とま）

・やりたい、やってみようかな、という子を中心に遊びを始める。

◇学級内にクラブを作る。（サッカー・鉄棒・一輪車　等）

★遊びにトラブルはつきもの。何か起こった時には「仲良くしよう」という指導ばかりでなく、トラブルから友達づくりのヒントを引き出す指導をしていきたい。

遠くから子どもたちの様子を見てみよう。

・先生の前では見られない子どもたちの様子が見られるかも…。

普段あまり話のできない子どもと話をしよう。

・平等に接しているつもりでも、どうしてもかかわりの少ない子どもたちができてしまう時もある。じっくり付き合ってみる機会に…）

簡単な事務連絡の確認（教師同士）

（2）給食

当番の決め方

・１週間交替、５～６人位のグループで分担
（席替えをしても当番に影響がないように、「学期ごと」「前期・後期」「年間通して」同じグループのメンバーが給食当番をするという方法もある。）

・自分の役割が自覚できるような当番表

配膳の仕方

・低学年から給食当番が協力して安全で手際よく配膳する方法を身に付けさせる。
・日直や給食当番はナプキンを敷いて着席している班からよんで、配膳していく。
・長い行列ができると、おしゃべりや悪ふざけが増えるので気をつける。
・食の細い子は「少なくしてください」と希望してもよいようにして、安心して食べられるようにする。

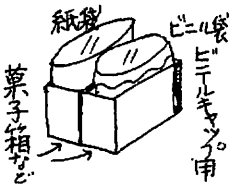
マナーの学習

・いただきます・ごちそうさまの挨拶
・はしの持ち方、食べる時の姿勢
・楽しい雰囲気で食事をする。
・食べ終わったら、席について静かに待つ。
・こぼした時等の処理の仕方

みんなが気持ちよく食べられるように配慮する気持ちを育てる。

嫌いな物にもチャレンジ

・苦手なものも「もう一口がんばってみよう」「○分までチャレンジしてみよう」と時間をかけながら、克服できるように励ましていく。
・食べてみようとする意欲付けに「もりもりカード」「がんばり賞」等を工夫する。



牛乳キャップ等を片付ける工夫

片付け

・グループで協力して片付けをする。
・献立にあわせて、上手にゴミをまとめる。
・きちんと片付けているかどうかを先生は見届けよう。

（3）そうじ

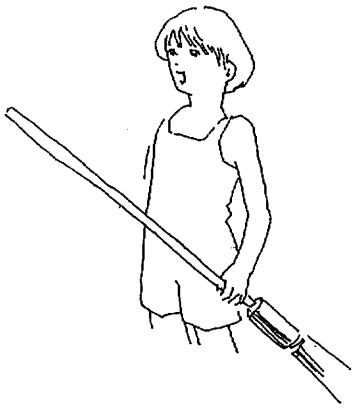
掃除が手際よくできるようにするために

・みんなで分担・協力して掃除をする。
・学級の実態に合わせて、１週間ごと等、掃除場所は定期的に交代する。
・当番表を作り、自分のその日の仕事がしっかりと自覚できるようにする。
・掃除当番の決め方例
　生活班で　　学期ごとで固定　　全部の場所を経験した後、班変え
・上手な用具の使い方（ほうきの使い方・雑巾の絞り方・拭き方等）は低学年から、丁寧に指導していく。

掃除の手順例

掃除の手順がわかるようなビデオを作成して、見せるのもよい。

①机・椅子などを友達と協力して運ぶ。
②ほうき係がはく。
③雑巾がけをする。
④棚拭き係はロッカーや棚を拭く。
⑤机と椅子を前に運ぶ。
⑥ほうき係がはいてゴミを取る。
⑦雑巾がけをする。
⑧机を戻す。
⑨反省会をする。



掃除に意欲的に取り組むための工夫

①話し合いで目標をたてる。
「みんなで協力して、はやく、きれいにしよう」
「今日は（今週は）○○を重点にきれいにしよう」等
②反省会を活用する。
○反省会で反省カードを基に、グループごとに自己評価を行う。
　反省カードの例（簡単につけられる◎○△にする。）
　・１週間の掃除のめあてについて（例）時間内に掃除を終わらせよう
　・きれいにできたか　・協力してできたか　・後片付けはどうか
　・今日のピカピカ賞（がんばった友達）
○担任から帰りの会などでがんばったグループの活動を具体的に紹介して評価する。
○掃除リーダーには反省会の流れを書いたシートを持たせる。（低）・

（4）係活動

所属の決定

子どもの希望を生かし男女のバランスなどを配慮したい。係によっては希望が偏ることもあるので、教師が適切に助言し、希望の変更を促したい。

係活動活性化への４つのアドバイス

〈1〉 活動時間の確保

- 朝の学級裁量の時間の利用
  - ・朝の会や帰りの会に係のコーナーを位置づける。
  - ・休み時間や給食の時間を有効に利用。

〈2〉 ネーミングに一工夫（子どもの発想を生かしながら）

新聞係→週間タイムズ　　生き物係→〇〇水族館

集会係（遊遊クラブ）

〈3〉 係同士の情報交換〈帰りの会で係のＰＲタイムの時間をとる。〉

〈4〉 自己評価・相互評価を（子ども自身が係の成果を確かめることも大切）

・学級生活向上の貢献度　　・活動の満足度

・集団の力量の形成度　　・一人一人の充実度

（5）座席・生活班づくり

①意図的な「子どもたちの関係づくり」の第一歩

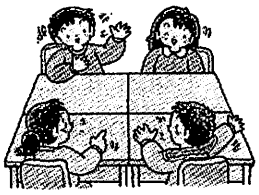
・席決めは、子どもたちの最大の関心事の一つ。その関心事をクジやジャンケンなどという非意図的な方法で決めず、教師の意図のもと、協働と協遊の体験をさせることが班づくりであり、学級づくりにつながっていく。

②座席決めの配慮

・視力・聴力・身長の高低・体格などについての配慮

・学習への関心・意欲・理解についての配慮

・人間関係についての配慮



4．放課後

帰りの会

帰りの会の例

◇今日の振り返り（今日のがんばったさん　　今日のＭＶＰ）

・１日を振り返り、自分の頑張ったことや友達のよいところを見つけて発表する。特定の子に偏らないように、あまり名前のあがらない子については、教師がその子のよいところを見つけて発表する等配慮する。

・「クラスの歴史を創ろう」として、皆で頑張ったことに対して記録に残していくのもいい。

◇係からみんなへ　みんなから係へ

「係からのお知らせや係へのお願いはありませんか。」

「係からのＰＲは、ありませんか。」

◇先生からのお知らせやお話

※さようならの後…｛さよならジャンケン・さよなら握手｝等をして教室を後にする。

子どもたちが帰った後

①子どもたちの顔を思い浮かべて一日を振り返ってみよう。その際、見えた子どものよさ・指導したこと等をメモにとる。

②自分の机上整理をする。

③子どもたちの机の乱れを直し、ゴミが落ちていたら拾う。

④黒板・黒板消しをきれいにする。

⑤窓を閉める。（カーテンは防犯上開けておく。）

子どもたちの作品の掲示

①掲示するなら全員のものを！（提出していなかったら掲示しない。）

②他の学級や学年の先生方の教室を見せてもらい、掲示の仕方の参考にしよう。たくさんのアイデアが溢れているはず。

コラム１

ゆとりある学校　こころを育てる学校に

学校へゆくみち　ながいから、　　いつもお話、かんがえる。
みちでだれかにあわなけりゃ、　　学校へ着くまでかんがえる。

だけどたれかと出あったら、　　朝のあいさつせにゃならぬ。
するとわたしはおもい出す、　お天気のこと、しものこと、
田んぼがさびしくなったこと。

だから、わたしはゆくみちで、　　ほかのだれかにあわないで、
そのおはなしのすまぬうち、　　ご門をくぐる方がいい。

金子みすずさんの「学校へゆくみち」という詩です。

ゆとり教育、心の教育ということばが、つい５、６年前までは重点目標になっていました。ところが、いまはどうでしょうか？

１学期の５月のことでした。

「今日、子どもに　けられちゃいました。」

と、新規採用の三年生担任から、相談を受けました。クラス一のやんちゃな男の子を注意したら、先生をけって逃げてしまった。どうすればよいかということでした。私は、返事に困ってしまいました。ところが翌日、その先生が、

「子どもが朝、自分から謝ってきてくれました。」

と、うれしそうに報告してくれました。

４月の出会いからそれまでの先生と子どもとの心のつながり、先生が、子どもが、独りで考え、相手に想いをめぐらせる姿が浮かび、私まで本当にうれしくなりました。

見える学力、点を１点上げられることもたいせつですが、もっと優先すべきことがあると、私は思います。それは「生きる力」であり「真の学力観」に通じるものなのだと思います。

子どもが子どもらしく生活できる時間を守ること。自分で考え、より豊かに、思いやりの心をもって行動できるように、日々の授業を充実させること。未来に希望をもち，進んで友達やまわりの環境に関わろうとする気持ちをもてるように、１人１人の子どもを理解し、学級を充実させていくこと。そんな仕事に全力を尽くしたいと思っています。

4．教室の環境づくり

教室は、子どもたちが一日の大半の時間を過ごす場所です。どの子にとっても家庭の次に『大好きな居場所』にしたいものです。

【配慮したいこと】

○<u>スッキリさわやかな教室</u>

・窓辺にはあまり物を置かず、日光を取り入れる。
・ガラスはいつもピカピカがいい。
・掲示物の色使いは明るくする。
・汚くなる所こそ、きれいにする。
（ゴミ箱、流し、掃除用具入れ、配膳台などは特に清潔に保つ努力が大切。）
・ダンボール箱などを隅に乱雑に置かない。
★「すっきり感」が気持ちをさわやかにして、嘘やごまかしのできない雰囲気を作る。

○<u>便利な教室</u>

・個人の物を使いやすく収納する場所を確保する。
（ロッカー、収納箱、フック　など）
・共有物は使いやすい所に置く。
（鉛筆削り、セロハンテープ、画鋲、辞書　など）
☆キャスター付きワゴンを集配物入れに使えば、車内販売のように移動させて喜んで集配するようになる。
・分かり易く表示する。（係や当番の分担を具体的に示す、各種カードの収納箱に表示をつける　など）
★何がどこにあるかが分かることは「安心感」をもたらし、居心地のよい場所になる。

○<u>意欲をかきたてる教室</u>

・学習の足跡や関連する資料を掲示する。
・子どもたちの作品を掲示して学び合えるようにする。
・立体模型などの教具を置き、触れて学べるようにする。
・係活動の掲示コーナーを設ける。
（学級会の予定、学級新聞、学習クイズ、意見箱　など）
★工夫や努力が認められたり、具体物に触れたりできる環境は、自信と達成感をもたらす。

学習や生活に関する常掲物
・学校の教育目標
・学年、学級目標
・生活目標
・時間割表
など

・メダカ、金魚、かめ植物　などを置くと、潤いが生まれ気持ちが優しくなる。

窓側

・転落防止用の柵には、雑巾などを干さない。

・流しには石鹸やタワシ、クレンザーなどを常備したい。

前　方

あると便利な物
- カレンダー
- 行事予定表
- 学年、学級だより
- 係の役割分担表
- 日直や当番の表示
- 学級ポスト、投書箱

など

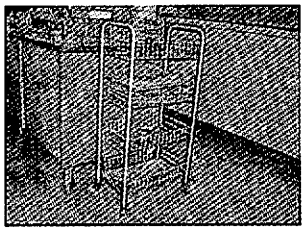
特に意識させたい物
- 努力目標
- 準備する学習用具の表示
- 配膳台、片付け方の図
- 白衣（持ち帰るため）
- ゴミ箱（分別用）
- 話し方、聞き方

など

廊下側

扉

☆キャスター付き
ワゴンの活用例



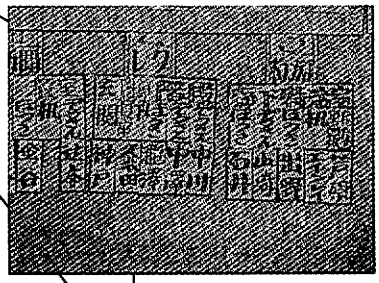
子供の足元の床に小丸シールなどを貼って印をつけると、机の整頓が容易になる。

余裕があれば
係活動用に
大き目の机が
置けるとよい・

ロッカー

- クリアファイルなどを固定しておけば、子どもたちの作品を見やすく掲示できる。
- 廊下の壁面には
  子どもたちの作品
  新聞の切り抜き情報
  今月の詩　　など
- 体育袋などを掛けるフックがあるとよい。

扉



- ロッカー
- 子どもたちの作品
- 係活動の掲示コーナー
- 児童会のお知らせ
- 習字作品
- 年表や地図
- 学習の足跡記録　など

- 共用物
  鉛筆削り　画鋲
  セロハンテープ
  マジックペン
  ボール、長縄
  落とし物（貸し出し用品）
  書類整理箱（欠席者への
  お便りカード、色紙　など）

後　方

Ⅱ　仲間の絆を深めるために

１．クラスのために働く係

４月、子どもたちと一緒に三つの学級目標を決めたとき、「人の喜ぶ仕事をしよう」という一つの目標ができた。学期のはじめはいつも、子どもたちと一緒に「係」を決めてきた。たいてい、数人の子で一つの係を作り活動を始めるが、しばらくすると、いつも仕事をしている係がある一方で、ほとんど、あるいは全く仕事をしない係があることに気づき、小さな悩みの種だった。子どもにとって、クラスの中に自分の仕事、役割、居場所があるということはとても重要なことである。「どの子も自分の役割を果たし、生き生きと活動できる仕事」「人の喜ぶ仕事」をさせるには・・・と考え、今年は従来の係の決め方を変えてみることにした。

①「当番」と「係」の活動を分ける

当番・・・・・・・輪番で行うもので、友達と協力し、責任をもって必ずやらなければならない仕事。掃除当番、給食当番、日直など

一人一役当番・・・その名の通り、朝学校に来てから帰るまでの生活の中で、一人一人が果たす役割を決めたもの。できればクラスの人数分あるとよい。必要に応じて子どもたちと話し合いながら新しい当番を増やすこともしていこうと思っている。

一人一役当番の例

★BOOK マン・・・団体貸し出し本の整理ならおまかせ！
★電子ちゃん・・・とにかくこまめに消して電気を節約します！
★スキルじゅんびちゃん・・・朝学習の用意をします！
★マグネットマン・・・黒板のマグネットをいつも整理整頓。
★リサイクルマン・・・まだ使える紙はどんどんリサイクルボックスへ
★チェックマン・・・提出物をチェックします。
★消しケシ１号・２号・・・きれいな黒板ならお任せ！右側と左側で分担
★ポストマン・・・職員室からお手紙を運びます
★お休みフォロー・・・お休みしている人に連絡ノートを書きます。

②「係」を「会社」形式にする

当番との違いをはっきりさせた。「会社」は、楽しく、クラスのみんなのためになって、喜ばれるものとし、いくつかの約束のもと、子どもたちの自由な発想で作れるように配慮した。

「会社をつくるやくそく」
・楽しくて、クラスやみんなのためになる仕事の内容にする。
・会社はいつでも作ることができる
・会社は一人でも作ることができる
・入りたい人は必ず入ることができる
・一人二つまで会社に入れる
・２週間以上仕事をしない会社はとうさんする　　など

【会社の例】
おめでとう会社　イベント会社　スポーツ新聞会社　新聞会社　昆虫会社
工作・実験会社　司会会社　植物会社

《子どもたちの様子》

とにかく、「誰が何をするのか」がはっきりするようになった。従来の「係」を仕事の内容別に「当番」と「会社」に分けることで、子どもたちは自分の役割をしっかり把握し仕事をしている。一人一役当番は、「ぼくに・私にまかせて！」という小さなプロ意識も育った。席替えをしても給食当番と掃除当番だけは１年間変わらないというシステムにした効果も現れ、「各分担場所でさらに仕事を分担して行うとけんかにならずスムーズに行える」と気づき始めた子たちもいる。また、早く終わったら、机運びを手伝うなどの約束も加えた。清掃は１０分以内に終わり、５時間目の前の５分間はゆったりと休んだり、本を読んだりしている子もいる。

また、「会社」は様々な種類ができ、中にはとてもユニークな活動をしているものもある。

★アリ会社・・・アリを飼い、くわしく観察する。皆のアリに関する質問について調べ、アリ新聞で答える。
★おめでとう会社・・・一人一人の誕生日、好きな色、好きな形を調べ、オリジナルのお誕生日カードを作る。

１学期間、子どもたちの様子を見てきて、「会社」は「仲間作りの場」と考えるようになった。「ちょっと集まって。打ち合わせするから」といった声がかかるのも微笑ましいし、男女でもめながらも真剣に、また楽しそうに活動している様子は大人の世界で言うと「サークル」のようだ。 今後も、子どもたちの実態に合わせて柔軟に対応させながら活動を続け、「クラスのために働く」意味を子どもたちと一緒に考えていきたい。

2．イベント

心躍る・気持ちがワーッと高揚する体験をさせる（仲間づくりのために）

学期の最後にレクリエーション大会を行う。子どもたちはレクリエーション大会があるととても張り切る。顔つきが変わったかのように別の世界へ入っていく。心踊る、楽しい世界へと入っていく。日常とは切り離されて。子どもたちはこのために生きていると言っても良い程入れ込む。「レクリエーション大会があるから、こんなにも勉強をがんばれる！」と子どもたちはよく言っている。

クラス全員で共有する心躍る世界、空間。できるだけ日常から離れて、楽しく心に深く残る体験をさせたい。子どもたちの心が一つにギューッとまとまるのが、目に見えるように分かる。子どもたちをワーッと引きつける魅力的な遊びをする。

実行委員も大人気で、実行委員になりたい子が殺到する。子どもたちが主体的に企画・実行することは、とても魅力的なのだ。レクリエーション大会の準備は、実行委員が中心になって行う。イベントの具体的な内容は子どもたちに任せるが、子どもたちの安全面には配慮し、気をぬかない。そして教師も一緒に心躍る体験をし、心が高揚する空間にいたい。子どもとも、心が一つになる。

レクリエーション大会で大人気

＜仮装レストラン＞

- グループごとに好きなメニューで料理を作る。
- 仮装してレストランを出す。
- お金は実行委員が作ってみんなに配る。
- 値段は、１００円・５０円。それぞれのお店でつける。

（メニュー）
ラーメン・クレープ
チャーハン・カレー
焼きそば
フルーツポンチ他

＜喫茶店＞

- カウンターを作る。教室を喫茶店に変身させる。
- 店員さんが大人気。店員さんの服装が楽しい。紙コップの用意。
- 飲み物のメニューを作り飾る。飲み物を持ってくる。水でもよい。

＜映画大会＞

- 教室の大きなスクリーンとプロジエクターを使って、映画大会を開く。
- 映画大会と喫茶店を組み合わせると、もっと楽しくなる。

スポーツ大会・ディスコ大会・お化け屋敷など

○自分のクラスに合ったイベントを考え、心躍る気持ちが高揚する体験をさせる。

３．集団遊び

みんなで思いっきり遊ぶと心が一つになる

レクリエーション係を中心にして、週１回の「みんなで遊ぼうデー」や月に１回の「お遊び会」を行い、クラス全員で思いっきり遊ぶ。みんなで思いっきり遊ぶと、心が一つになりクラスがまとまる。クラスが温かい雰囲気に包まれ、子どもたちは和やかで明るい顔になり、お友だちにもやさしくなる。

帰りの会などの短い時間の中でも楽しいゲームができる。弾んだ心で下校し、明日へのエネルギーにもなる。いつも子どもの心が明るく、弾むように考えたい。

一番人気のＳケン

何といっても一番人気があるのがＳケンである。単純な遊びではあるが、自分たちの工夫の仕方でとても面白くなる。クラスが一つになって遊べ、遊びの楽しさに子どもたちは、のめりこんでいく。

２つのチームに分かれ、それぞれのチームの宝物（石など）を早く手に入れたチームが勝ちである。ルールは学年に応じて簡単なものから少し複雑なものまで、発達段階に合わせて考えればよい。

作戦タイムをつくると、各チームとも宝を奪う作戦をいろいろ考えて、とても盛り上がる。基本的には、一つのチームの中を「攻め」と「守り」に分け、チームで相談して宝を奪う効果的な方法を考え実行する。相手チームとの心理的なかけ引きもでき、作戦の面白さはつきない。陽動作戦など、考えただけでも楽しい。

- 片足ケンケンで攻めて行くので、両足をついてしまったらアウト。
- 陣地から出てしまったら、アウト。
- 攻める時、相手チームと戦う中、つい力があまって相手を倒してしまうこともあるので、それはアウトにする。楽しく遊んでいても、けがをしないように必ず配慮する。

王様ゲーム

みんなの「王様は、だーーーーーれだ！！！」の大きな掛け声で、クラスの気持ちがぐっとまとまる。クラス全体で声を合わせて言うと、クラスの雰囲気がギュッとひきしまるのが分かる。短い時間でできるので、帰りの会にお勧めである。このゲームも大人気である。一人が「王様」になり、みんなで「王様」の動作のまねをする。「王様」を見つけるゲームである。用意する物もいらないので、いつでもでき、気持ちが一つになる効果は抜群。

○超能力ゲームなど、楽しい遊びはつきない。遊びは心を開放しエネルギーを与える

コラム2

― Sさん と チャレンジノート ―

今年の4月から新しく4年生の担任になることになりました。このクラスは新しく編成されたクラスではなく、3年生の時の担任の先生が転出し、その後を受けて入った形です。

同学年の先生は、昨年からもち上がりのやる気満々の若い先生で、

「今年はチャレンジノートをやりたいのですが、一緒にやりませんか。」

と声をかけて頂き、1年間続くかどうか少し不安でしたが、チャレンジノートをスタートさせることになりました。チャレンジノートとは、好きな課題を選び自主的に行う家庭学習のことです。

今度のクラスは、人数が24人のクラスで、このクラスには、Sさんという女の子がいます。Sさんは声を出すのが苦手な女の子です。1・2年生のときは、ほとんど声を出さなかったそうです。3年生になり、朝の呼名のとき、みんなが言っている「元気です。」が小さい声ながら言えるようになりました。

今年の4月、Sさんと出会い、さっそく声をかけコミュニケーションをとろうとしました。「声はだめでも、あいづちか何かで返事のサインを返してくれるのでは。」と期待してみましたが、返答はなく、続いて筆談に挑戦してみました。しかし、筆談に答えてくれることもなくその場は終わりました。

言葉の出ない子の話は、いろいろな場で耳にすることはありました。しかし私にとっては実際に対面するのは初めてのことで、対応のしかたがわからず少し困惑しました。

その後何日もすることなく、給食の時間に涙ぐんで何かを訴えることがありました。何人かの子が話しかけてみるのですがなかなかわかりません。

そのとき、始めたばかりのチャレンジノートに「Sさんと楽しく遊びました。」と書いている子供のことを思い出し、お願いをしてみたところ、「先生、頭が痛いんだって。」とすぐに聞き返してくれました。

チャレンジノートに救われた思いがしました。

実は、ノートを使った作業が得意で、その後チャレンジノートにきれいな字で、いつもいろいろな思いを書いてくれます。そしてその中には、

「私は、みんなと同じように話をしたい。今度は朝のスピーチを自分で発表するぞ。」

など、強い意欲を時々伝えてきます。

今は普段の中でもいろいろな会話ができるようになってきました。とても忙しい日常ですが、チャレンジノートは欠かせない存在になっています。

第２章

学校のみんなとともに創る学級

コラム3

子どもの可能性の無限さにただ感動…。

（学習発表会の取り組みを通して子どもたちの中に起きたこと）

今年で２３年目を迎える・・・教師です。

振り返ってみれば、そんなにたいしたことはやっていないのですが、こんな私でも忘れられない場面というのはいくつかあります。新規採用から５年目に５年生をもった時のことです。国語に「大造じいさんとがん」という教材があります。その教材に対して子どもたちは一生懸命に取り組みました。これは、国語だけに終わらせておくのはもったいないという思いにかられ、図工や音楽や身体表現などを取り入れた合科的な学習を取り組みました。図工は、「大造じいさんとがん」の物語絵、音楽は場面場面に歌う自分自身が自由に作った曲の合唱、登場人物の身体表現などを同時進行で学習しました。３学期に学習発表会という形をとり保護者にも公開しました。この合科的学習の取り組みを通して、学級集団の高まりが少しずつ見え始め、子どもたち相互の関係もより親密になったように思います。かなりたくさんのことを欲張ってしまったので、子どもたちには大変だったかなあと思いましたが、よく私についてきてくれました。この取り組みの中で、いくつかの子どもたちの素敵な場面に出会ったのですが、ここで二人の子どものことについて触れたいと思います。まずＯ君のことです。

彼は体育が少し苦手で、跳び箱運動はかなり苦労していました。学習発表会で、体育の発表も行ったのですが、その種目の一つに「ヘッドスプリング（台上頭支持前方転回）」があり、Ｏ君は何度も挑戦しても一度もできませんでした。そして迎えた当日。保護者の方々が一人一人と集まりだしている頃、最後の跳び箱練習でその事実を目の当たりにしました。私自身は半分あきらめかけていたのですが、周りの子どもたちの熱意に後押しされたＯ君は、「みんなのがんばれ！」という大声援の目の前で見事に台上で体を宙に転回させたものです。跳んだ瞬間体育館が大歓声に包まれたのは言うまでもありません。その場所に居合わせることができたことだけで、私は教師になってよかったなあと実感しました。何がＯ君を跳ばさせたのでしょうか。今になってもわかりません。でも、今でも跳んだ後のＯ君の輝くような笑顔は忘れることができません。二人目はＥ君です。

この子は、図工が大好きでしたが、それだけにこだわりが強く、作品作りに時間がかかってしまう子でした。これも当日の出来事です。物語の作品は体育館の壁に飾られていたのですが、Ｅ君のだけはまだ貼られていませんでした。そして、発表会が始まる直前に満足いっぱいの顔をしたＥ君が作品を大事そうに抱えて体育館に駆け込んできました。こだわり続けたＥ君の作品の息づかいは、まだ私の心の中の記憶として深く残っています。

ある学習を通して一生懸命取り組んだことが、学級をあるいは個人を成長させるのでしょうか。残りの教師人生の中で、どれだけの素敵な子どもたちと出会えるのでしょうか。私もＥ君のようにこだわりをもって実践していきたいと思います。

第２章　学校のみんなとともに創る学級

Ⅰ　学校行事を通して学級づくり

１．学校行事のねらい

学校行事のねらいは，全校や学年の一員としての自覚をもち集団における自己の役割を考えて望ましい行動ができる児童を育成することである。

２．学校生活の充実をめざす集団づくり

学校生活の充実をめざすためには，学校行事を通して次のような学級をつくっていくことが必要である。

(1)自由な雰囲気の中で互いの思いや願いを表明し合い，目標を設定することができる。
(2)集団目標の実現のために互いに協力し合い集団活動を行うことができる。
(3)集団活動を組織的計画的に展開し，創造的な活動が行えるようにする。
(4)創造的な活動を行うために，自由で建設的なコミュニケーションが活発に行えるようにする。

３．個を生かす学級づくり

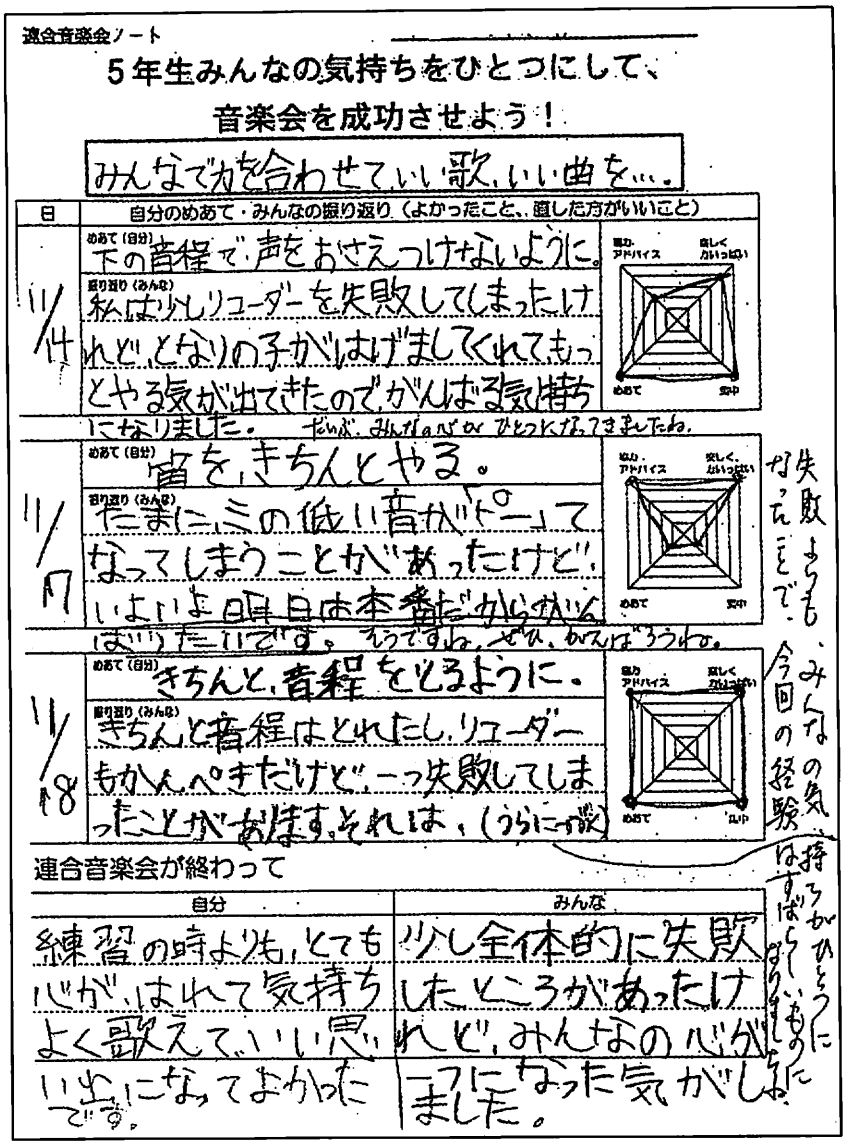
「自己価値観」は児童自身が育てていくものであるが，学級や学年などの集団の受け止めが大きな役割を担っている。児童の「自己価値観」を育てるには次のような手順が必要である。

(1)望ましい集団活動ができる学級の存在。
(2)児童一人一人の「自己価値観」の気づき。
(3)児童それぞれの考えや役割行動を集団（学級・学年）が認める。
(4)児童に自信をもたせる。（教師・学級や学年の児童）
(5)さらに高い水準に課題をもたせ，児童一人一人の自己価値観を育てる。

４．実践例：ふり返りカードの活用

次のようなレーダーチャートに，学年共通のめあて（４項目）をきめる。それ以外に練習毎のめあてを立てさせ，ふり返りをさせる。毎回のふり返りコーナーは行事の内容や児童の実態に合わせて数回分設け，最後に行事後のふり返りもさせる。

（児童本人が提示するだけではなく，教師，友達から感想や意見を伝えてもらう。）



連合音楽会ノート

5年生みんなの気持ちをひとつにして、
音楽会を成功させよう！

みんなで力を合わせていい歌、いい曲を…。

日	自分のめあて・みんなの振り返り（よかったこと、直した方がいいこと）
11/14	めあて（自分）下の音程で、声をおさえつけないように。 振り返り（みんな）私はリコーダーを失敗してしまったけれど、となりの子がはげましてくれてもっとやる気が出てきたので、がんばる気持ちになりました。だから、みんなが一つ ひとつになってきましたね。
11/17	めあて（自分）音をきちんとやる。 振り返り（みんな）たまにミの低い音が「ド」になってしまうことがあったけど、いよいよ明日は本番だからがんばりたいです。そうですね、それ、がんばろうね。
11/18	めあて（自分）きちんと、音程をとるように。 振り返り（みんな）きちんと音程はとれたし、リコーダーもがんばったけど、一つ失敗してしまったことがあります。それは、（うらにつづく）

連合音楽会が終わって

自分	みんな
練習の時よりも、とても心がはれて気持ちよく歌えていい思い出になってよかったです。	少し全体的に失敗したところがあったけれど、みんなの心が一つになった気がしました。

失敗よりも、みんなの気持ちがひとつになったことで、今回の経験はすばらしいものになりましたね。

5．実践を通して

学校行事に取り組むことは、時間と労力がかかり，面倒に思えることがある。しかし，学校行事の取り組みを通し，教師は普段と異なる児童の姿を発見することができる。学級行事という機会を生かせば，学級づくりによりよい成果をもたらすことは確実である。

今回は，レーダーチャートを用いたふり返りカードを紹介した。このように児童の意識を図式化し，児童本人，教師，友達が互いにそのカードを共有し合うことで，より望ましい集団活動のできる学級をつくり上げるきっかけができると考える。

（参考文献：宮川八岐著「個を生かす集団活動と学級文化の創造」東洋館出版社）

Ⅱ　縦割り活動・異学年交流を通しての学級づくり

1　縦割り活動

（1）ねらい

・「全児童を全教職員で育てる」という理念を実践する。

・継続的な縦割り班を設定することにより、

①異年齢の子どもたちとの交流を図る。

②リーダー的役割を経験する中で、高学年児童に高学年としての自覚と指導力を身につけさせる。

③下級生に、上級生とのふれあいの中から望ましい上級生像について学ばせる。

・縦割り班を組織することで、よりダイナミックな楽しい行事や取り組みの創造を図り、子どもたちの主体性や意欲を高める。

（2）班作り～実践例

・きょうだい学年で班編成

１年と６年、２年と５年、３年と４年というように、組み合わせる学年をきょうだい学年とし、クラスの中でグループを作り、もう一方の学年のグループと組み合わせる。比較的グループ作りは短時間で済む。

・１～６年生を１つのグループに（以下、筆者の学校の取り組み）

１つのグループに全学年が入るようにする。大きい学校になればなるほど工夫が必要になる。

（3）縦割り班での取り組み

・集会的全校活動として取り組み

遊び集会（ロング・ショート）、子どもカーニバルの出店、児童集会・体育集会への縦割り班単位での参加、縦割り掃除

・行事への取り組み

運動会の色分け、交流給食、６年生を送る会、たてわり勉強会

（4）その他

・班の名前、マスコットを決めると、愛着がもてるようになる。

・兄弟姉妹が同じ班にならないように配慮する。

・班長・グループ長を前期後期制とすることで、６年生のほぼ全員がリーダーを経験できる。全員が集まる縦割り班活動の前には、縦割り班長会、グループ長会を設け、活動にめあてや見通しをもたせる。

2　学習場面での異学年交流

（1）ねらい

縦割り班活動が特別活動であるのに対して、学習の一環で行われる活動が主となる。伝え・伝えられる、教え・教えられる経験を通して、学習への意欲が高まったり、対象が明らかになることで学習の方向性が明確になったりする。

（2）　交流例

教科	学年	交流の様子
国語	３年と２年	作文「教えたい場所」の対象を２年生とし、作品完成後読んでもらう。それに対して、２年生がお礼の手紙を書き、その後も互いに同様の交流を続ける。
	高学年と低学年	読み聞かせや本の紹介をし、児童主体で読書活動の活性化を図る。
	６年と５年	移動教室の報告を聞いてもらう。
	6年と中学生	「未来に生きる」をテーマに討論会を行う。
図工	１年と２年	造形遊びを合同で行う。よりダイナミックな活動が展開。
	６年と１年	動くおもちゃを作り、１年生に遊んでもらい感想を聞く。
生活	１年と２年	２年生が、学校探検の案内役をしたり、動植物の世話の仕方や伝承遊びを教えたりする。合同でお祭りを行う。
	２年と３年	「あしたへジャンプ」３年生に取材をして、進級への意欲を高める。
総合	４年と３年	「水」をテーマに取り組んだ研究を３年生に向けて発表する。（どの学年でも、発表の対象を設定した上で準備を進めることは可能。）

学級経営との関連

担任と担当となった教職員がしっかりと情報交換することが大切である。教室では見られない或いは担任が気付かなかった児童の一面をしっかり把握し、それを日常の学級での生活の中で引き出していくことが大切だ。また、高学年では児童全員がリーダーシップを発揮する場面を設定するのは困難であるが、このような活動の中ではリーダーシップがいやおうなく求められる。教室の外で養われたリーダーシップを学級生活に活用できるよう担任は働きかけていく必要がある。

Ⅲ　学校・学年の協力体制

１．協力体制づくりの基本

担任が自分ひとりの力で学級経営を進めるだけでなく、学年あるいは学校組織みんなの目で学級を見て、みんなの力で育てていく。そんな姿勢はこれからますます大切になってくることだろう。協力体制を組むときには、次の３点を基本として進めていきたい。

①無理のない協力体制で

協力体制についていくら良い計画を立てても、実際に取り組むのに無理があると長続きしない。無理なく無駄のない協力体制づくりをしたい。

どんな小さなことでもよいから、変化を起こせそうなことから始めてみましょう。

②個々の持ち味を生かして

協力するときに、自分の得意な教科や領域など生かすことができれば、主体的に生き生きと取り組むことができる。教師が自分自身の持ち味や良さを再確認し、じっくり話し合ってみるとよい。

学年の協力体制でも、学校組織としての協力体制でも、得意なことならやりやすいはずです。

③プラスの情報交換を

協力体制を進めるにあたって、情報交換は欠かせない。子どもたちのマイナス面に目を向けるより、一人ひとりの良さ、できるようになったこと、がんばっていることなど、プラスの情報を交換すると、協力体制に弾みがつく。

良い変化を伝え合うのが、協力体制を長続きさせる秘訣です。

2．協力体制の具体例

学年内であれば、各教科・領域の教材準備や授業のアイディアの提案、交換授業など、日常の教育活動の中に協力できる材料はたくさんある。学校組織として協力体制を組む場合には、専科や少人数指導などそれぞれの立場で関われることを探していくとよい。

持ち味を生かした学年経営

学年が２学級以上なら、担任それぞれの持ち味を生かした学年経営が可能である。「家庭科は自信があります」、「体育の授業ならまかせて」、「書道を習っていたから書写は私が…」などと声をかけ合っていく。交換授業という形でなくても、教材の準備や指導のアイディアなどを伝え合っていけば、授業の中身が充実していく。お互いの持ち味を尊重しあって協力していくとよい。

学年内にとどまらず、他学年の先生たちと得意技を交換し合えば、お互いの力量を高め合うことにもつながります。

専科の先生も一緒に給食

専科の先生は、ふだんは主に授業だけのお付き合いである。でも、いろいろな学級に入って給食を食べると、授業中とは違った子どもたちの表情や、意外な面が見えたりする。子どもたちも専科の先生との距離が縮まって、授業の雰囲気が変わってくることもある。

また、専科を担当していない学年の子どもたちとのつながりもできて、学年が上がって授業を受け持ったとき、スムーズな立ち上がりが期待できる。

ただ給食のお手伝いをするというのではなく、授業時間を超えて子どもたちと接することが、新しい関わりを生み出します。

学習発表会での取り組み

総合的な学習や生活科等で進めてきた学習を発表するとき、専科の先生がその活動に関わっていくと、発表内容にふくらみが出てくる。

子どもたちも、いろいろな先生に関わってもらうことで、意外な成長ぶりを発揮できる。

運動会、展覧会、移動教室などさまざまな行事で、いろいろな協力体制が組めるはずです。

3．学級が荒れたときの支援のヒント

ヒント①　気軽にＳＯＳを出しましょう

学校組織の中に「困ったときの協力体制」が十分に確立されていない場合には、まずＳＯＳを出すことが大切です。でもＳＯＳを出すのは簡単なことではありません。問題が深刻になるほど、人に打ち明けるのが難しくなってきます。ＳＯＳが必要なときほどＳＯＳが出せない、という困った事態が生まれてしまいます。

ＳＯＳを出しにくい理由として、「自分の力でなんとかしたい」（あるいは「できるだろう」）という場合や、弱みを人にさらけ出したくないというような場合があります。またＳＯＳを出した後、どのような支援が受けられるのかわからないので、安心してＳＯＳを出せないというような場合もあります。そのあたりを振り切るのはたいへんですが、まずはだれかに話してみましょう。一人では煮詰まってしまっていた問題でも、別の視点で見ればあっさり解決方法が見つかる、というのはよくあるものです。また苦しい胸の内を口に出してしまうと、たいていそれだけですっきりします。

気軽にＳＯＳを出してみませんか。

ヒント②　しっかりＳＯＳを受けとめましょう

同学年の先生からＳＯＳが出されたとき、どんな対応をすればいいのでしょうか。よさそうでよくないのが、「自分はこんなことやってうまくいったよ」というアドバイス。元気な人に自分の成功経験を話すのは意味があるのですが、ＳＯＳを出すような状態では逆効果になることがあります。

たいていの場合ＳＯＳを出すのは、相当参っている状態のときです。そんなときに人の成功経験を聞くと、かえって落ち込んだり無力感にさいなまれてしまったりするのです。ＳＯＳを受けたときは、相手の今の気持ちを共感的に理解しながら、その人と一緒に解決探しをするような姿勢が大切でしょう。決して原因探しはしないでください。うまくいかなくて困っているときには、それまでやってきたことの中に失敗の原因はいくらでも見つかるものです。でも本当は、「うまくいかない状態」というのは、単純な理由で起きているわけではありません。本人のやり方にも一因はあるかもしれませんが、解決困難な問題が起きている背景には、実は複雑な事情が絡み合っているのです。そのあたりを理解した上で、「一緒に解決策を見つけていきましょう」という姿勢を示すと、ＳＯＳを出してよかったと感じてもらえるはずです。たとえすぐに解決策が見つからなくてもいいのです。「自分の立場をわかってくれる人がいる」ということは安心感を生み出し、解決に立ち向かおうとするエネルギーを高めます。

ヒント③　学校として協力体制を組むときは…

学年で関わる場合も学校全体で協力体制を組む場合も、原因探しから解決探しへの発想の転換が必要です。なにはさておき、どんなことをすればうまくいきそうか、思いつく限りアイディアを出し合うのです。出てきたアイディアの中から現実にやれそうなものを、支援をする側、受ける側それぞれの立場に立って選び出し実行していきます。支援をしたり支援を受けたりする者にとって無理のない手立てかということをふまえていないと、どこかに無理が生じて失敗します。

協力体制が整ったら、子どもの変化に目を向けながら支援を進めていきます。協力体制を組んだ結果、うまくいかないことを話題の中心にするより、小さな変化でも良いからうまくいっていることを話題にするといいでしょう。特に複数の教師が支援に加わる場合、良い変化を共有することがとても大切になってきます。交替で支援に入っていると、クラスの一部の様子しか見えません。「忙しい中で支援しているけれど、自分の支援の効果はあるのだろうか」と心配になったり、「ちっとも変化がないじゃないか」と投げやりになったりすることもあります。

そこで、定期的にクラスの状態について話し合う場をつくって、どんなに小さな変化でもよいから具体的なことを出し合うのです。月に１回、３０分程度の短い時間でもかまいません。支援を受けている先生は、その都度クラスの状態について評定しておくと良いでしょう。「このような状態までもっていきたい」というのを１０点として、現在は何点かグラフにかき込んでみるのです。簡単なことですが、その評定値が支援に関わる人みんなにとって、とても重要な意味を持ってくるはずです。

ヒント④　荒れた学級を支援するときの留意点

・ＴＴとして関わる場合は黒子のような役割に徹し、子どもが学習に取り組めるような声かけや支援を心がけましょう。
・授業の内容については、指導的な言動はなるべく差し控えましょう。
・担任教師が中心で、支援者はあくまでもお手伝いであるというイメージを子どもに与えるよう配慮しましょう。
・担任としては、まずい部分にはある程度気づいていても、支援を開始した当初はそれをすぐに改善するだけの余裕が無い場合が多いのです。気持ちのゆとりが生まれるまで学級経営に関する指導・助言は最小限にしましょう。
・本人ができること、やりやすいことを共に見つけていくという関わり方の姿勢が大切です。

Ⅳ　新規採用の先生へ

1．指導教員から、新規採用教員へ

これから長い道のりを歩かれる新規採用の先生方に、ぜひ、伝えたいことをまとめてみました。

（1）自分を信じて

・教師の道を選んだ自分自身を、とにかく信じること。社会の変化、親・地域の変化、子どもの変化に対応しながらも、自分の教師哲学をしっかりともちましょう。

・燃え尽きないことも大切です。教師だって、人間です。悩みもすれば行き詰まることだってある。ときには、気分転換だって必要なのです。

（2）子どもを信じて

・学級担任にとって一番大切なことは、子どもの可能性を信じることだと思います。子どもを信じて、信頼関係を築くことが学級経営で一番大切なことです。

・といっても、すべて子ども任せにするということではありません。よい学級環境作りは、先生の仕事ですから。きちんと指導しなくてはならないときも、場合によっては叱ることがあってもいいのです。君（たち）ならできるはずだという、熱意と行動が人を動かすのです。

（3）力のある教師になるために

・「教師の可能性は３年で決まる」という業界用語（？）を知っていますか？

・教師が他の仕事と違う点は、採用されてすぐに担任をもち、他のベテランと同じ仕事をこなすということ。そして、具体的な学習指導、生活指導は全て担任に任されているということです。このことは、大きな危険をはらんでいるのです。

・「まあ、こんなものか」と、教師の仕事を見切ったつもりになったり、子どもを威嚇して言うことを聞かせたりする技（？）を覚えてしまったり。先生の技量は、だいたい３年で決まるということ。だから、研修が大切なのです。

・子どもが見えないとき、自分の指導力不足を自覚するときほど教師が悲しいと思うことはありません。以下の三拍子そろった教師を目指し、日々、努力しましょう。

1　授業力　（おもしろく、力がつく授業をする力）

☆　よい授業をたくさん見よう・・・研究会への参加、先輩教師の授業参観

☆　授業を見てもらおう　　・・・研究授業などは進んで受ける

☆　指導案、指導記録を残そう・・・教材研究ファイル、週案の充実

2　経営力　（子どもを理解し、分析、判断・企画・実践・評価する力）

☆　学級経営のノウハウを学ぼう・・・先輩教師から、書物から、研修会から

☆　自分の経営パターンを確立しよう・・・チャレンジ精神、実践記録

3　人間性　（広い視野と倫理観、子どもを引きつける力）

☆　人として・・・常識感覚、豊富な知識、豊かな対話、新聞・読書

☆　子どもを愛すること・・・笑顔で、子どもの目線で、将来を見つめて

2．学級事務の効率的な方法

膨大な教師の仕事量。書き出していくと、それだけでページが埋まるほど！そして、求められる質の高さ、内容の濃さ、効率のよさ、幅広さ・・・。だからこそ、無理無駄のないように

その1　資料を有効に活用しよう

・学校で保管している、前年度等の資料をもとにする。
　学年通信、教材プリント、校務分掌の提案など
・自分の作った資料を、パソコンやファイリング等して、保存しておく。
　例①パソコンでは、年度と日付を頭に打ち込んでおくと、次年度に使いやすい。
　　１７０４１２　学級児童名簿→１７年４月１２日作成
　例②指導資料はカタログをつくり、板書記録等デジカメでとっておくと、さらに便利
　例③ポートフォリオなどは、学期別が便利
　例④ファイリングするときは、背表紙をきちんと。
・月別に学級事務の項目やアイデアが載っている冊子を活用する。
・教室の掲示物も、次年度以降も使える物はしっかり丁寧に作っておく。

その2　先輩のワザをまねよう

・仕事の早い先生は、無駄が少ない。取りかかりの時期、手順など、その先生の仕事パターンをまねてみよう。

その3　同期の先生とのネットワークを生かそう

・新規採用の先生は、同期、同学年の先生と進んで仲間になり、情報交換をしよう。

その4　学年で分担できるものは、分担していこう

・学級事務でも、分担できるものがあるはず。（文書の枠など）

その5　通知表は、必ずコピーしておこう

・学年末の要録の記入では、通知表のコピーがあると仕事が早い。

☆　本当に大切なことは、子どもたちとのふれあいです。そして、指導のために時間をかけること。時間を上手に使い、学級経営を充実させていきましょう。

コラム4

この半年を振り返って

4月、新規採用教員として小学校に赴任。

５年生の担任としての生活が始まりました。前年度勤めていた高校とのギャップに驚く毎日。中でも子どもたちが「先生、先生」と常に話し掛けてくることには驚きました。休み時間に「先生、トイレ行っていいですか」と聞かれた時は、何でこんなことを聞くんだろう？と、とてもびっくりしましたが、今思えば、自分が子どもたちとどう接するか悩んでいたように、子どもたちもどう先生と向き合うのかを試行錯誤していたからだと思います。それはいまだに続いていることですが。

5月、待ちに待ったGW。

しかし、ほとんどを学校で過ごすことになりました。でもこの時期、子どもたちのいない教室で、子どもたちのことを深く考えられたおかげで、子どもたちとの接し方や指導の方法を自分なりに深められたと思います。そして月末には移動教室。出発時から失敗が続き、同行したあらゆる人に迷惑をかけることになってしまいました。しかし、子どもたちと２泊３日寝食をともにしたことで、児童理解を多少なりとも深められることができました。

6月、緊張の学校公開。

直前に、６月にもなりながら板書した漢字の書き順や、教師としての言葉遣いを指導教員より指摘されていました。授業の基本ともいえることをいまだにできない悔しさと、迫る学校公開での不安。助けてくれたのは子どもたちの笑顔と素直な心でした。いよいよ公開日、でも授業の最後には誰も後ろにいませんでした。

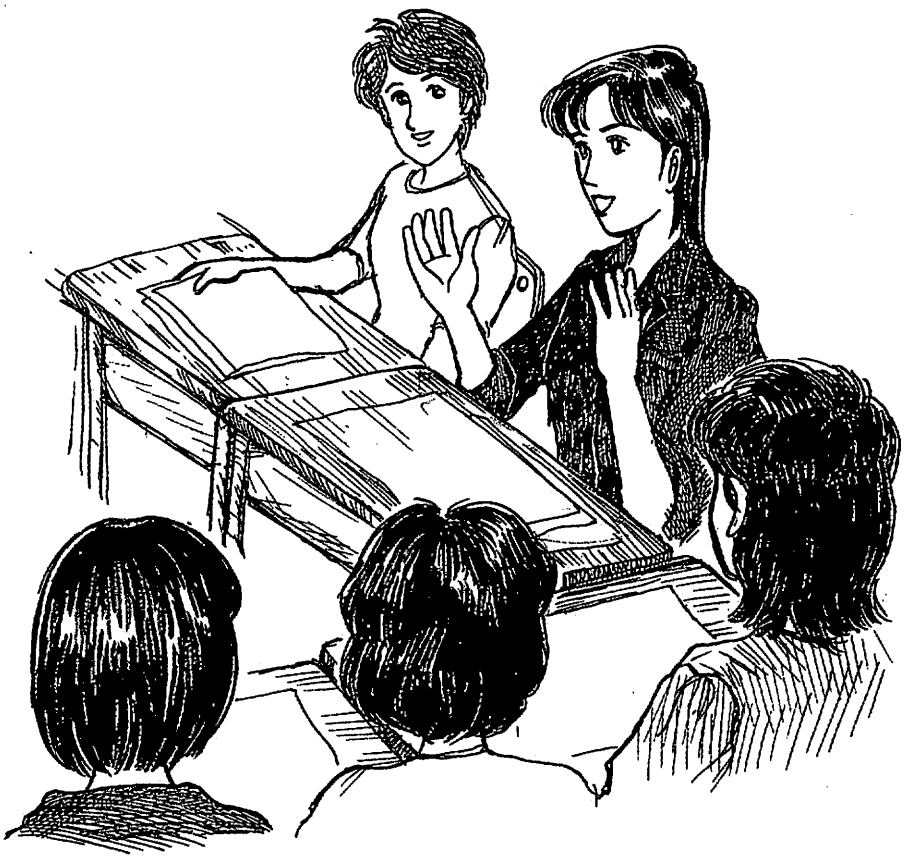
7月、通知表の所見に追われる日々。

締め切りを過ぎながらも、何とか全員分を書き上げました。次の日、実は身も心も疲れ果てて行った教室で、予期もしない「先生１学期お疲れさま会」に遭遇。突然のことに声も出ずただ、ただこの職についた喜びと、子どもたちの優しさを改めてかみしめていました。

思えば子どもたちとまわりの先生方、保護者に支えられて乗り切った１学期。一刻も早く自立し、まわりを支えることができるように２学期も精一杯がんばっていきたいと思います。

第３章

保護者とともに創る学級



第３章　保護者とともに創る学級

Ⅰ　来てよかった保護者会に

１．保護者同士の輪を広げるために

エンカウンターの手法を用いて

① 一度も話したことのない保護者がペアをつくる。３０秒ずつ時間を設け、自己紹介をする。このとき、子どものことではなく趣味や特技など自分のことについて話すようにアドバイスする。

② ２つのペアが合体して、４人組をつくる。ペアの２人は、①で自己紹介をもとに、３０秒での自己紹介をする。

③ ４人組を２つ合体させて、８人組を作る。一人ひとり、現在がんばっていることを３０秒で紹介する。

④ ③が一巡したら、がんばっていることに対して誰でも何人でもいいので、３０秒を使って賞賛し合う。

⑤ ８人組を２つ 合体させる。（ほぼ参加している保護者を２つに分ける。）担任のスタートの合図で言葉を一切発することなく、誕生月順に並び替えをする。先に並び替えが完了したチームが勝利である。

こんな工夫も

◎ 小グループを作って話し合いをする。

◎ 隣の人を紹介する。（○○の隣の△△です。）

◎ 「○○さんのお母さん」ではなく、「今日は名前で話し合いましょう。」

◎ 親しい方とだけでなく、他の保護者とも話す機会を設ける。

◎ 男女別、名簿順などのグループで話す。

◎ 学校で歌っている歌やゲーム、取り組んでいる百人一首、算数の問題などをやる。家庭で保護者がそれを話題にすることにより、子どもと学校の話題が共有できる。

◎ 授業などをビデオに撮ってみせる。

２．保護者会の持ち方

学年のはじめにこれだけは

保護者会　　～　**来てよかったと思ってもらう工夫のヒント** ～

4月	新しい学年になり、担任に対する関心が高まっている時期を大切にする。

① 学習の進め方、家庭でやってほしいこと、子どもの成長のとらえかた等、教師の思いを伝える場にする。

ポイント　担任が替わったからでなく、学年が替わったからこんなことを大切にしていきたいと伝える。学年で共通理解が得られればベスト。

学習の進め方…授業で大切にしていること。家庭学習のやり方。
家庭でやってほしいこと…規則正しい生活。朝食を必ず食べる。
子どもの成長…結果だけでなく、どう取り組んでいるかを大切にしていく。

② 自己紹介を兼ねて、我が子のよいところを２つ教えてもらう。

ポイント　取り立ててずばらしくなくても“よい子”、短所もプラス思考で長所に見えると伝える。

１学期末　５校時に 発表の場を設ける。
学習の取り組みがわかる掲示を心がける。

生活科・総合的な時間の学習、音楽など、学習のまとめを発表する。
子どもたちの学習の意欲づけにもなり、保護者の学習内容の理解に役立つ。
そして、子どもたちに対する担任の評価観を理解してもらうよい機会である。

⇩

・よいものをよいとほめる。 ―	学級全体を引き上げてくれることに役立っている。よいものを真似することも大切な学び方である。
・進歩を認める。 ・努力したことを認め、ほめる。	学校では、結果だけでなく、よりよいものにしていく学び方を大切にしている。それが、生きる力の大きな要素と考えている。
・注文したら、前向きに考えて努力したことをほめる。	子どもはだめ出しされても前向きに考えられる、大人はなかなか難しい。この素直さはより大きな力を身につけていくためのすばらしい資質である。

2学期はじめ

① 2学期の学校生活で大切にしていきたいことを伝える。
② 子どもたちの家庭や地域での生活の情報交換の場を設ける。

ポイント

・情報交換のときは、グループに分かれてざっくばらんに話せる雰囲気をつくる。
・終わりの時間を決め、どんな話が出たか報告してもらうことを伝える。
・必要に応じて、いくつか話題を投げかける。
（例）おこづいの有無や金額、友だちが遊びに来たときのマナーやおやつ、放課後あそびの場や種類等
・話題は、学年だよりでアンケートをとるのもよい。

2学期終わり

① 新しい年を迎える節目の時期をどう活用するかを伝える。
② 子どもの友達のよいところを紹介してもらう。

ポイント

子どもたちは、子どもたち同士のかかわり合いの中で伸びていく。我が子を取り巻く集団を高めていくことも大切であるというメッセージを伝える。

3学期はじめ

次の学年に向けての心がけておきたいことを伝え、学校での取り組みや家庭で協力していただきたいことを伝える。

3学期終わり

① 子どもたちの成長や次の学年に向けての課題、体験させておきたいことなどを伝える。
② 子どもたちの発表の場を設ける。
（例）お別れ会 … 特技やがんばったことの発表
音楽の合奏や歌の発表会
生活科や総合的な学習の時間の取り組みの発表

Ⅱ　家庭訪問・個人面談　～　出会いを大切に　～

1．家庭訪問

事前に

家庭訪問は、保護者との心をつなぐよい機会。
事前の準備と担任の人となりを印象づけることが大切。
時間に余裕をもって計画・準備する

①家庭訪問の計画を立てる

２週間前までに…「訪問のお知らせ」を配布する

○訪問のねらい
○訪問の日程
○保護者へのアンケート
（日時、話題の希望等）　他

※住所や道順を考慮して、先に担任が訪問予定を組んでから、保護者の都合を聞く方法もある。この場合大きく変更することもあるので、早めにお知らせを出す。

平成○年○月○日
○年○組保護者様
○○小学校
○年○組担任○○○○

家庭訪問のお知らせ

先に学校からお知らせしましたように５月８日(月)～５月１２日(金)に家庭訪問を予定しています。小学校生活をスタートして、一カ月になりますが、学校やご家庭でのお子さんの様子を話し合ったり、お子さんや学校に期待していることやご家庭の教育方針などお聞かせいただいたりして、理解を深め合えたらと願っております。１５分ほどの短い時間ですが、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

訪問時刻予定表　敬称略

	8日(月)	9日(火)	0日(水)	1日(木)	2日(金)
2:00～	佐田	屋敷	玉田	梅子	伊達
2:20～	村田	麻生	安達	金井	中川
3:00～	遠見	岡部	金沢	西山	荻原

○都合のつかない日時がありましたら、連絡…
○短い時間を有効に使うために次のことを…
＊話題にしたいことがあれば予め……
＊茶菓等のおもてなしはお断り…
＊時間内にお話できなかったときは、後日……

１週間前までに…日程を調整し、「家庭訪問予定表」を配布する。
○日程等の変更があればすぐ連絡してもらう。
○兄弟がいる子どもは、同じ日で時間をずらす。
○時間設定時に５分程度移動時間を確保しておくか、予備の枠（空欄）をとっておき、時間調整に利用するとよい。

②情報を集め整理して、個人資料（枠組）を作成する

○学期始めに提出された児童資料等を参考に、できる限り一人一人を把握する。
○子どもの学校での活躍や、成長の様子をまとめておく。
○訪問の経路を学区域地図などで確認しておく。

訪問時　子どもと子どもを取り巻く環境を多面的に知る

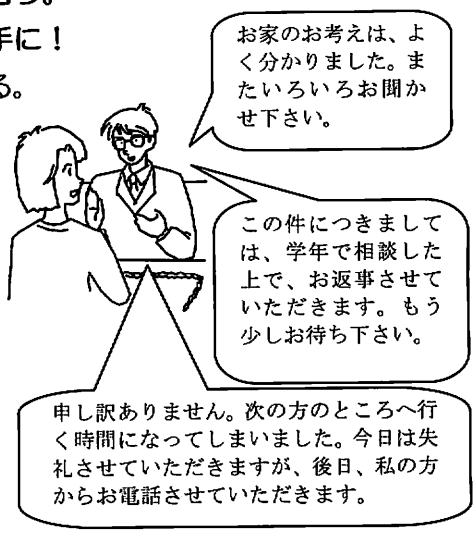
①第一印象を大切に
（清潔感、誠実さ…）
服装、あいさつ、言葉づかいは信頼関係づくりの第一歩。

②子どもに道案内をしてもらうのもよい
→迷子にならない
⇒通学路や遊び場、遊び方の安全点検ができる。

③共同で子育てをする仲間をつくる気持ちで話し合う。
よさを見つける「プラス志向」で！　よい聞き手に！

・学校での活躍ぶりや子どものよいところを伝える。
・家での子どもの生活の様子、指導上必要なことを聞く。
・家庭での教育方針、保護者の願い等は十分に受けとめる。

家族、生活習慣、手伝い、下校後の生活、遊び、健康面…

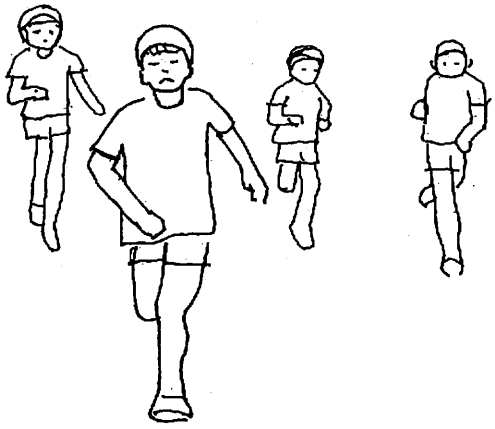


④学校全体にかかわることや難しい問題については、**即答しない**で学校に持ち帰り、相談・検討してから、できるだけ早く答える。

⑤時間を守る。どの家庭でも同じくらいの時間になるように心がける。どうしても到着が遅れてしまうときは、電話連絡だけでもする。

訪問後　結果を活用する

○疑問や要望には、必ず応えるようにする。
○訪問中はメモをとらない。訪問が終わったら整理して記録して、指導に役立てる。



2．個人面談　～　プロとしての専門性を発揮して　～

事前に　一人一人の豊かな情報を、整理しておく

平成○年○月○日
○年○組保護者様
○○小学校
○年○組担任○○○○
個人面談希望調査についてのお願い

校庭の木々も美しく色づき、……日頃より学校教育にご協力ありがとうございます。
……○月○日～○日は個人面談を予定しています。……ご都合をお聞かせください。
下の表のご都合のつかないところに×印をつけて○日までにご提出ください。……

―― キ リ ト リ 線 ――

○年○組個人面談希望調査表

お名前【　　】

	1日(月)	2日(火)	3日(水)	4日(木)	5日(金)
2:00~2:00					
2:00~2:00					
2:00~2:00					

＊話題にしたいこと

①個人面談の計画　（早めに準備する）

家庭訪問と同様の手順で「個人面談のお知らせ（希望調査）」、「個人面談予定表」を作成し、配布する。

②情報を集め、整理し、よいところや伸ばしたいとこを明らかにしておく。

○学校での生活や学習の様子、子どもの作品やノート等から子ども一人一人の資料を準備する。

○事前に、子どもからアンケート（興味をもっていること、努力していること、やってみたいこと、先に聞きたいこと、今困っていること、自分で直したいと思っていること等）をとり、それをもとに、子どもと話し合っておく。

○専科の先生からの情報を聞いておく。

○保護者からのアンケートをもとに、話を焦点化しておく。

③会場の設定・配慮事項

○保護者を長時間待たせないように配慮するとともに、待っている間に読めるように、学校・学級だより、子どもの作文、掲示物等の準備をしておく。

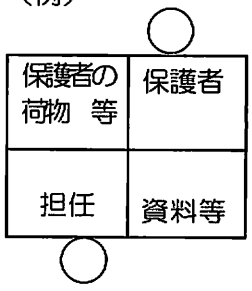
○時計を置く等、時間が分かるようにして、「時刻になったら、ノックをしてお入りください。」と張り紙をしておくのもよい。別室が用意できるとなおよい。

○落ち着いて話し合える環境をつくる。整とんされた教室、花を飾る、子どもの作品を掲示する等…。

○座席は真正面に向き合うより、斜めに向かい合う方が互いに話しやすい。机の高さは同じにする。

○服装、あいさつ、言葉づかいに気をつける。

（例）



面談時　子どものよさを伸ばし、課題を乗り越えられるように共同で支え合う

◎保護者の質問、発言の時間を確保し、担任が一方的に話をしないように心がける。

○**保護者から**子どもの生活面、学習面において困っていることを出してもらう。

○**友人関係**でいじめやいやがらせを受けていないか、話してもらう。（あれば、緊急に対応すべき内容である）

○**学習面で遅れている場合**、担任の指導と子どもの状況を具体的に話して、家庭の協力をお願いする。

○**生活面で課題のある場合**も同様に対処する。子どもや家庭の育て方を責めるような言い方にならないように。信頼関係が崩れ、百害あっても一利なし。

自分たちの思いを押しつけ合うのではなく、
互いに一人の人間として尊敬し合い、子どもの成長を
共に願う仲間として、豊かな人間関係を築いていきたい。

Ⅲ　学年・学級便りにひと工夫

ー 読まれる、待たれる、手軽にできる通信作りをめざしてー

日々の教育活動の中で生き生きと活動する子どもたちの姿を、自分だけの感動の中で収めておきたくない、だれかに伝えたいと思ったことはないだろうか？この気持ちこそが、学年・学級通信発行の原点である。そして、これは継続してこそ学年・学級経営の強力な武器になる。単なる「連絡」に終わらせず、「学校・学級と家庭が連携し合う」関係作りのための通信にしたいものである。

学年便りは学年内の話題や伝えたいことが中心となり、学級便りは学級独自の話題が中心となる。保護者にとってより身近なものとして喜ばれるのは学級便りである。そこで、特に学級便り作りについて大切なポイントを挙げてみたい。

1．心得

①常に人権に気を配ろう

人権上どうかな？と思われることは事前に保護者や本人の承諾を得る。

②継続は力なり

学年学級作りに大いに役立ちます。定期発行を心がけよう。

③じぶんらしさを出そう

通信名や○○コーナーなどにユニークさを出そう。

【通信名例：「いきいき１組（１組担任の時）」、「にこにこ２組（２組担任の時）」、「さわやか３組（３組担任の時）」、「わ（輪）わ（和）わ（わっ：感動のわっ）」など】

④視野を広げよう

本、新聞、インターネット、情報番組などの情報源に対して敏感に反応できるアンテナをはっておこう。教育関係者以外の方との交流も大切にしたい。

2．読まれる、待たれる内容を

①児童の様子・出来事

きれい事を書くだけではダメ。ただし、困ったことを書くときは「家庭で何とかして欲しい」という気持ちが前面に出ている書き方はNG。ときには、子どもたちの言葉で様子を伝えることもよい。

②教師の思い

「文は人なり」明るく前向きな人間性が溢れるように書こう。

③作品

載せる児童に漏れがないよう、名簿でチェックをしよう。全員の子どもの作品・感想などを載せることで成長の記録にもなる。

④保護者の声

保護者と教師、保護者同士の交流の場となるよう、普段から連絡帳などでこまめに連絡を取っておく。掲載する場合は事前に承諾を得る。

⑤行事

いつも終わった後からの報告にならないようにしたい。ねらいや途中経過などをタイムリーに載せていく。

⑥保護者を啓発する教育情報

正しい情報を伝えていくためには、情報源のネットを広げ、教師も学ばなければいけない。

3．継続するために・・・手軽に書くことをめざして

①特集化、シリーズ化

○○コーナー（例：お誕生日、子育てヒント、今教室で）

②枠組みを作っておく

題字、校名、学級名、日付、NO.

○○コーナー、来週の学習予定　など

③年間発行計画を立てておく

学校行事と関連させて

保護者を啓発（子育てヒント）するテーマ

④メモを常時携帯する

その気になれば話題はたくさん転がっている。児童観察や取材を常時し、すぐ書けるようメモを携帯。ものを見る目も養われる。

⑤発行用紙サイズはＢ５でOK。

負担にならず、“あっ”と言う間に書くことができる。

定期発行することで、書くためのコツが分かり、書くことが苦ではなくなってきます。教師自身が楽しみながら発行し、結果、児童も、保護者も教師自身も伸びていく、そんな通信になるといいですね。

Ⅳ　新たな学びを－保護者、地域の教育力を生かして－

１．保護者や地域との信頼関係を深める

今日、保護者、地域の教育力は、学校教育において欠かせない要素である。その力を生かしていくためにはまず、保護者、地域から学校・学級の信頼を得て、互いに共通理解を図ることが大切である。

そして、教職員の指導の在り方はもとより、一人一人を大切にした活動、よさを伝える活動、問題、相談への対応、安全への配慮やちょっとした心遣いが、保護者や地域との信頼関係を深めることになる。

そして、保護者や地域の教育力は、学校側が高みに立っていては生かせない。保護者や地域は、いきなり利用するものではなく、まず交流・参加するものだからである。いたずらに教育力の導入を急ぐのではなく、まず結びつきこそを大切に考え、その上で学校、保護者、地域が、それぞれの視点で「協力して子どもたちのためにできること」について、ゆったりと考えを巡らせることが大切であろう。

保護者や地域との信頼関係を深めるアイデア

連絡帳

・通常の連絡、よい出来事などは丁寧な字で伝える。
・いきなり、必要事項を書き出すのではなく、“いつもご協力ありがとうございます。”の一言をそえる。
・文章だけではうまく伝わらない場合（問題行動など）には、電話、面談、家庭訪問などを心がける。よいこと、最近できるようになったことなどを付け加えられるとよい。

電話作戦

担任からの電話は、親にとって何か問題があった時・学校で具合が悪くなった時と思われがちである。そのイメージを変えよう。１学期に３回程度でよいから全員の保護者によいこと・がんばったことを電話で伝えよう。些細な事でも、よいことなら担任の言葉で伝えることで「細かく見てくれているんだな」と受け止められる。電話＝困ったことではなく、よいことのイメージになる。

配慮を要する子の保護者への連絡

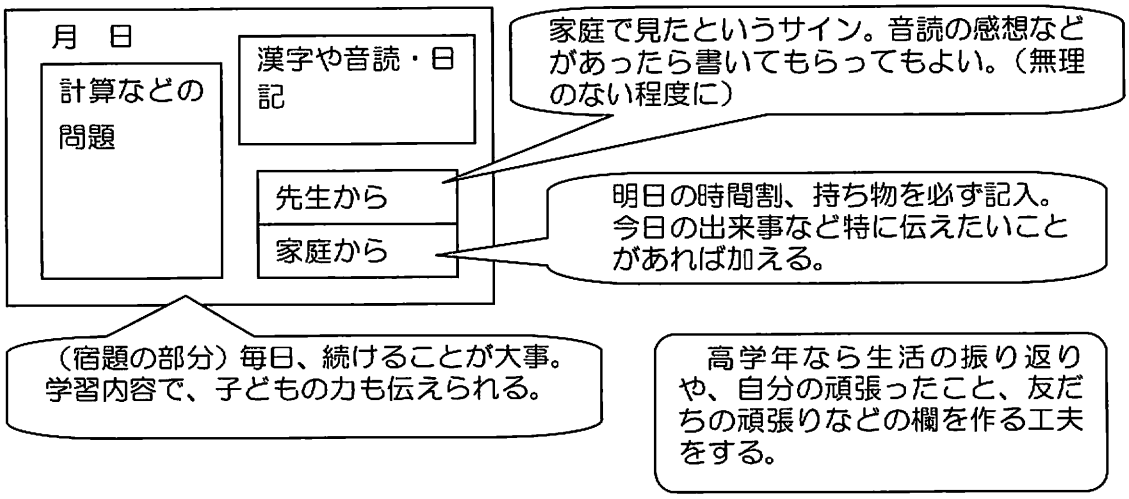
曜日を決めて週１回は電話を入れる。特に変化がなくても、継続的に連絡を取ることが大事。習慣化することで保護者とのつながりが生まれてくる。また、１度にたくさんのことは要求しないでほめることも話しながら伝える。

リレーノート

子どもについて、趣味について、最近感じたことなど、保護者の方の肉声を書いてもらい、教員のコメントを付けて次の保護者の方に渡す。最初は自己紹介や家族紹介などが多いが、だんだんほぐれてきて、趣味やおすすめレシピなどの、井戸端会議風の話題で盛り上がってくるとしめたものである。保護者同士の心のつながりができてくると、子どもたち全体を、保護者みんなで温かく見守っていこうとする雰囲気が醸成されてくる。

家庭学習プリントの工夫(宿題は親子で)

・宿題・学びの様子・連絡などを一枚にまとめて伝える。（印刷して全員に配布）
勉強をする、簡単、忘れ物が減る、学校の様子が全員にわかるなどの長所がある。
低学年はもちろん、工夫によっては中・高学年でも成果が上がる。



飛び込め地域行事

地域にとけこむには、いろいろな行事に飛び込んでいくことが一番である。そして、チャンスは行事の最後にこそある。たとえば児童館のもちつき大会を例にとると、子どもたちと交流したりおもちをついたりすることは勿論だが、終わった後のあとかたづけまで、積極的に地域の人たちと汗を流すことを心がけたい。その後の反省会で、児童館の方々、父母の方々、町会の方々などと膝突き合わせて語ることは、まさに地域との一体感を感じる体験である。

2．保護者、地域の教育力を生かした例

保護者、地域の人たちはそれぞれに様々な知識・技能をもち、様々な体験を積んでいる。子ども達の学習にそれらが生かされたら、活動はより楽しく豊かなものになる。また、地域の行事に参加するなど子ども達が地域の人々と交流することにより、自分達を温かく見守ってくれる人達の心に気付き、地域のよさを体験することができる。そして、もっと深く広く周囲とかかわっていこうとする気持ちも育まれる。以下にいくつかの実践例を挙げる。

ゲストティーチャー

年度始めに保護者、地域に呼びかけ、人材リストを作り、各教科・生活科・総合的な学習に計画的に活用する。年間指導計画を立て、どこでどんな協力を必要としているのかをあらかじめはっきりさせて、アンケート方式でリスト作りをする。

児童館でダンスを教えている方に、運動会の全校ダンスの指導してもらう。保護者にも講習会を開き、当日は大人も子どもも楽しめた。

ビオトープづくりにNPOの方に参加してもらう。

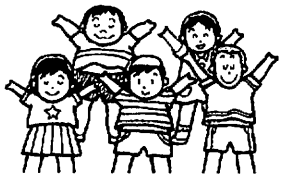
新聞の編集に携わっている保護者に、特ダネ取材のノウハウを教わる。地域に取材したので、地域への関心を集めるきっかけとなった。

地域との交流

PTA に協力してもらい、地区班ごとに学区内にある「子ども１１０番の家」を確認しながら回る。登下校時などにおける犯罪への対処を身につける。「子ども１１０番の家」の方々とのコミュニケーションがとれた。

校庭を会場に開催される盆踊りのため、地域の民謡の会の方々に休み時間に踊りを教えてもらう。当日は子どもたちが音楽の時間に学んだ太鼓の演奏を楽しんでもらった。

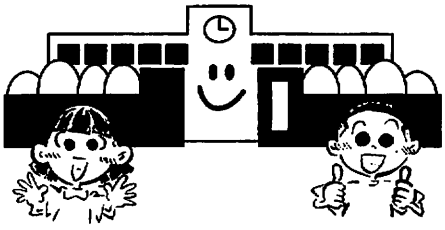
地域清掃や夏休みのラジオ体操



学びの場づくり

父親が主体となる保護者の自主的な会が、子どもたちのために地域施設を利用した観望会、郷土資料館見学会、プールを使ったカヌー教室などを企画し運営している。

地域、保護者から講座開設を募り、子どもたちのために夏休みのサマースクールを開く。アニメ作り、歌舞伎立ち回り、マジック教室など楽しく学んでいる。



コラム5

教師って・・・？

「やっぱり、学校の先生は違うね。」って言われてみたい。

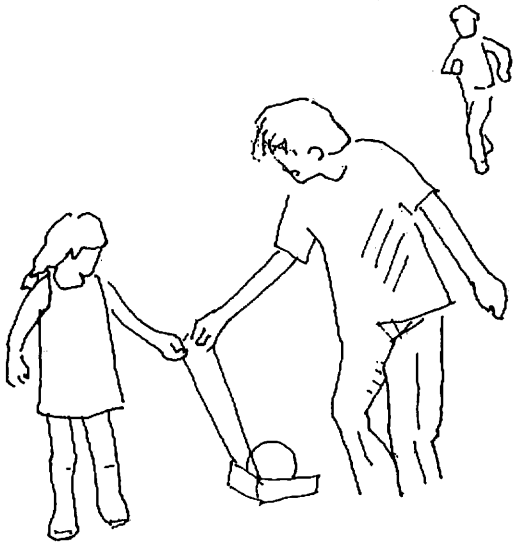
その昔、教師は尊敬されていたそうな。「先生」ということば、人間性、知識、判断力ともに併せ持った尊敬すべき人に対して使われたそうな。

今、朝6時から職場に向かい、夜遅くまで丸付けをしている教師より、ワイドショーをみているお母さんたちの方が、知識があり、世の中をよく知っているかもしれない。受験技術を磨いている塾の先生の方が、自信をもって学習指導を進めているかもしれない。

いま、尊敬されるのは、一つの生き方を貫ける人たち。そして、世界的に有名になった人たち。ヒデのように、イチローのように。

「正しく生きる」という主語がない現代社会のなかでは、学校の教師には何の役割もないのだろうか。とはいっても、学校の先生たちがみんな「正しく生きよう」としているのか？と尋ねられたら、「そうです。」と言い切れるだろうか。

教師って、何なんだろう？
教師の生き方ってなんだろう？



第４章

特別に配慮や支援を要する子どもを学級の中で育てる

第４章　特別に配慮や支援を要する子どもを学級の中で育てる

現在、通常クラスに在籍する特別に配慮や支援を要する子どもは６％ほどいると言われています。子どもたちは(特別な支援を必要とする子どももそうでない子どもも)、一人ひとり異なる特性を持っています。それを生かすには通常クラスにおける教師の力量が大切です。つまり、教師の力量が高いと言うことは、学級の中で個人の能力差も個性として認め輝けるチャンスが増えると言うことになります。特別に配慮や支援を要する子どもへの指導は、全ての子どもにも役立つものになります。

教師一人一人の力量を高めるためには、教育技術をみがくこと、基礎的な発達や障害特性について学ぶこと、「個に応じた指導」をさらに個別化すること、の３点が必要です。

Ⅰ　特別支援教育とは

１．特別支援教育の定義

特別支援教育は「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。」と示されました。

学級経営とは、生活や学習上のきまりを子どもたちに示し、子どもたちと一緒に学級を作っていくものです。「・・・一人一人の教育的ニーズを把握して、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行う・・・」というのは、学級経営では大切なことの１つと考えます。

2. 特別な支援の必要な子どもたち

私たち教師は診断することはできません。また、現在目に見えている状態が障害に起因する場合と障害以外の要因（心理的原因や環境など）に起因する場合があります。障害に起因するか否かに関わらず目の前にいる子どもにしっかり向き合って、ていねいに対応し、支援することが大切です。

しかし、障害の基礎的な知識は必要です。発達障害の主なものです。参考にしてください。

LD　Learning Disabilities の略「学習障害」

知的発達に大きな遅れはないのに、学習面でつまずきや習得に困難を招きやすい状態

（国語または算数の基礎的能力に著しい遅れ、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する能力のいずれかの著しい遅れ）

＊主な特徴

・（読み、書き）細かいところに注意を向けられず、字を間違える。
　目と手の協応運動が苦手。

・（聞く、話す）似た音の区別ができない。助詞や受身などの理解が困難。

・（その他）記憶するのが苦手。左右、時間などの混乱。

ADHD　Attention Deficit Hyperactivity Disorder の略
「注意欠陥多動性障害」

年齢や発達に不釣合いな注意力、または、衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。

学校生活等では自分の気もちや行動をコントロールできないため、集団生活になじめず適応困難な状況に陥りやすい。

＊主な特徴

・（不注意）持ち物をよく紛失する。話を聞いていない。

・（多動性）注意しても離席する。座っていても手足を動かす。

・（衝動性）順番が待てない。おしゃべりが止まらない。

高機能自閉症

自閉症の主症状（①対人関係の障害②コミュニケーションの障害②こだわりや興味の限定）があり、知的機能と言語機能に遅れがない。

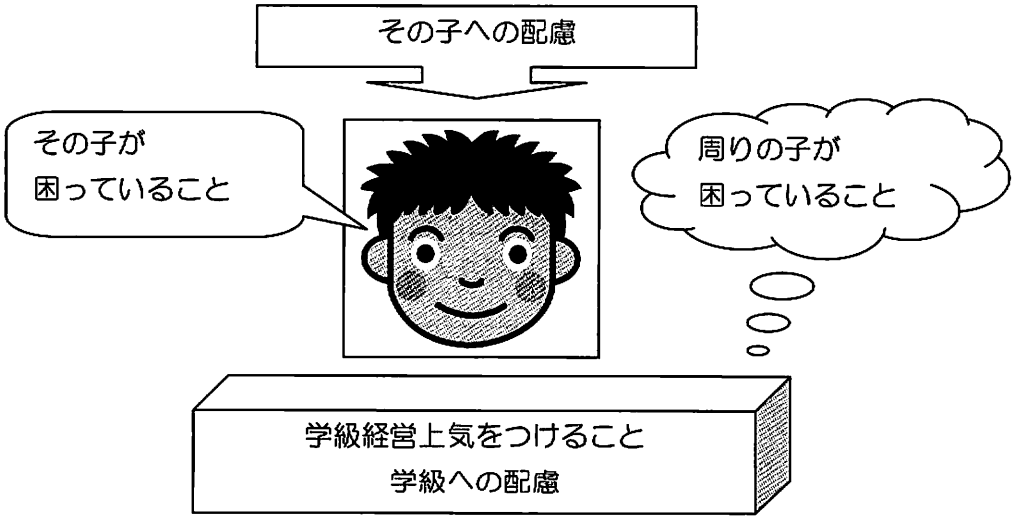
特にコミュニケーションの障害が軽微な場合はアスペルガー症候群と診断される。

Ⅱ　教室でできる配慮

まず教師が子どもの現在の状態を適切に理解することが大切です。理解されないまま過ごしている子、否定的に見られてきた子もいます。また、最近の子どもは自尊感情の低い子も少なくありません。配慮を必要とする子どもだけでなくどの子も自尊感情をはぐくみ、高める支援を心がけることで、学級の力を高めることにつながります。そのために、

① 情緒の安定をはかる。
② 学習意欲を高め、学習する楽しさを味わわせる。
③ 自信をもたせる。
④ 具体的なスキルを身につけさせる。
⑤ 自分や相手の気もちを理解させる。
⑥ 見通しをもたせる。

ことを基本として支援をする必要があると思います。



（ケース１）落ち着きのない子ども

意図的に「動かす」「しゃべらせる」
例えば　・「廊下に行って深呼吸を３回しておいで」
　　・答えの板書をさせる。
　　・プリントの配布を頼む。
⇒不適切な行動が起きる前に適切な行動をさせる。

授業中でも気になると、そこに行っちゃうんだ。先生の話を聞いて思い出したことがあってしゃべりだしちゃったよ。

うろうろしたり
ちょっかいを出したりして、やだな。

当たり前のことをさり気なくほめる。
低学年の場合　その子への配慮と同じことを、周りの子にも適度にする。
高学年の場合　その子が困っていることを周りの子に伝えていく。

（ケース２）感情のコントロールが苦手な子ども

一時的に感情をコントロールするスキルを伝える。
例えば　・深呼吸
　　・数を数える（カウントダウンはあせらせるので×）

その子の状態を言葉で表現する。
自分で表現できるようにスキルを伝える。

気分転換やクールダウンできる場所を確保する。
例えば　・保健室　・相談室

我慢できなくなって怒っちゃたんだ。
みんなぼくのことばっかり責めるからイヤだ！

勝手なことばかりしてずるいよ。
順番守らないからイヤだな。

その子の状態や気もちを伝える。
ルールを簡潔にして明確に表示する。
子ども同士で注意する時の言い方を伝える。
注意する時「ルールの１番と違うよ。」注意されたら「次は気をつけるね。」

（ケース３）反抗的、挑戦的な言動の多い子ども

言ったことを必ず守る。（変更せざるを得ないときは理由を明確に説明する。）
その子が活躍できる場面を作る。

先生の言っていることわからないよ。
できないのにやれって言うんだもん。
どうしたらいいの？

先生の言うこと聞かないでいけないいんだ。

指示は明確に、簡潔に
いいこと、悪いことをはっきりさせる。
正義が通るように規律を整える。

（ケース４）寡黙傾向のある子ども

無理に話させようとしない。「また、今度ね」
話すことを書いてから発表させる。
グループ発表などで発表体験を積ませる。

みんなの前で話すと緊張しちゃうんだ。間違えたらどうしようと思うと、声が出なくなるの。

なんで発表しないの？一人だけずるいよ。

話す時と聴くときのルールを明確にする。
話型を提示して安心して話せる環境を作る
小さなよさを見つけ互いに認め合う活動を日常的に取り入れる。

（ケース５）一方的でマイペース過ぎる子ども

具体的に、主語・述語・目的語をつけて完全な文章で話す。
キーワード（その子に伝わる言葉）を見つける。

友だちがどんな気持ちでいるのかわからないよ。今どうなっているのかわからないよ。

自分の好きなことばかりやっていていいの？

日程や予定を具体的、経時的に説明・提示する。
視覚的にとらえられる指示や提示をする。
肯定的な言葉を使って話す。

（ケース６）ぼんやりして、やる気が感じられない子ども

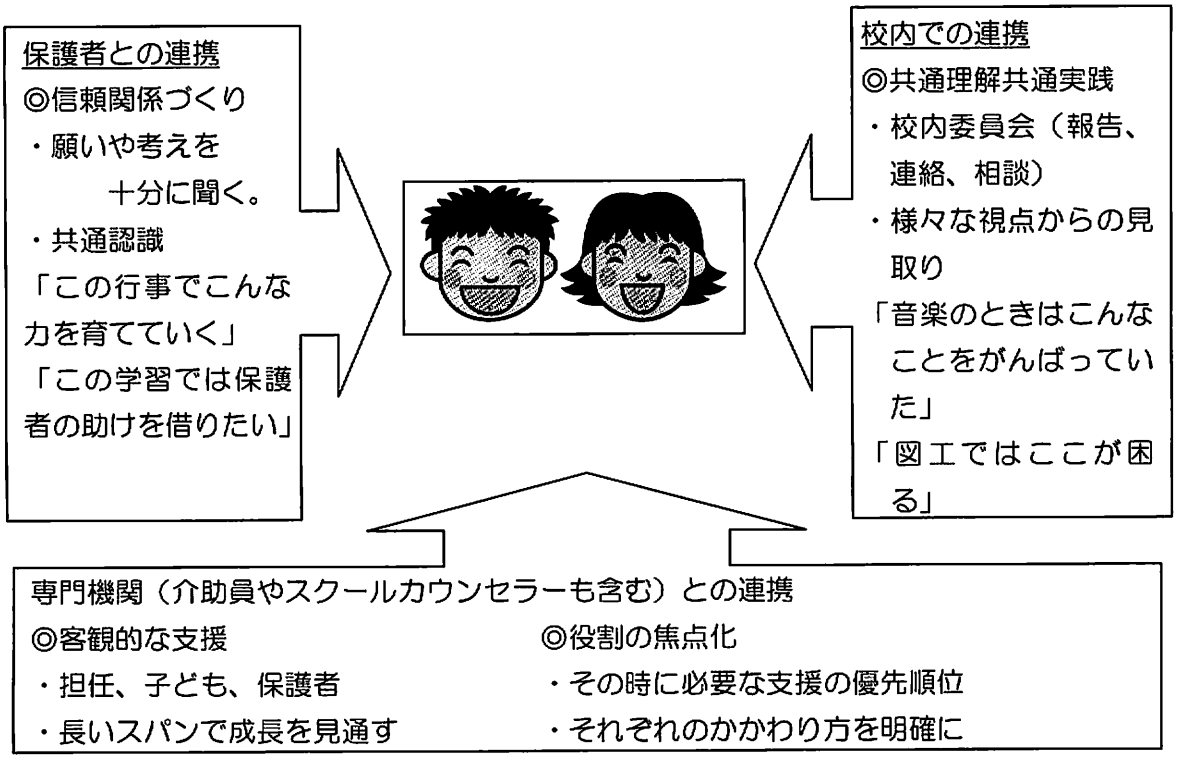
個別の声かけ　説明の中でその子の名まえを使って注意を引く
小さな達成感　課題をいくつかに分け短時間で仕上がるようにする

他のことが気になったり、飽きたりするの。わからない時、どうやって言えばいいの？

グループで一緒にやるのに、やってくれないから困る。

ノートの書き方など具体的に指示する。
説明に絵や図を使い視覚的にとらえられる工夫をする。
特に低学年は、15分程度の活動を組み合わせる。

◇　連携の工夫



参考資料

○　「ＬＤ・ＡＤＨＤ特別支援マニュアル　―通常クラスでの配慮と指導―」　（森孝一著　明治図書）

○　「ＡＤＨＤサポートガイド　―わかりやすい指導のコツ―」　（森孝一編著　明治図書）

○　「発達障害のある子の困り感に寄り添う支援
―通常の学級に学ぶＬＤ・ＡＤＨＤ・アスペの子どもへの手立て」　（佐藤曉著　学研）

○　「見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
―通常の学級に学ぶＬＤ・ＡＤＨＤ・アスペの子どもへの手立て」　（佐藤曉著　学研）

○　「“特別支援の基本スキル”がなければ学級担任は出来ない！」
（平山諭監修／河田孝文・大貝優希編著　明治図書）

○　「特別支援教育基本用語１００―解説とここが知りたい・聞きたいＱ＆Ａ―」
（上野一彦・緒方明子・柘植雅義・松村茂治編　明治図書）

○　「気がかりな子どもの理解と支援マニュアル」
（練馬区教育委員会・練馬区学習障害児等教育推進委員会

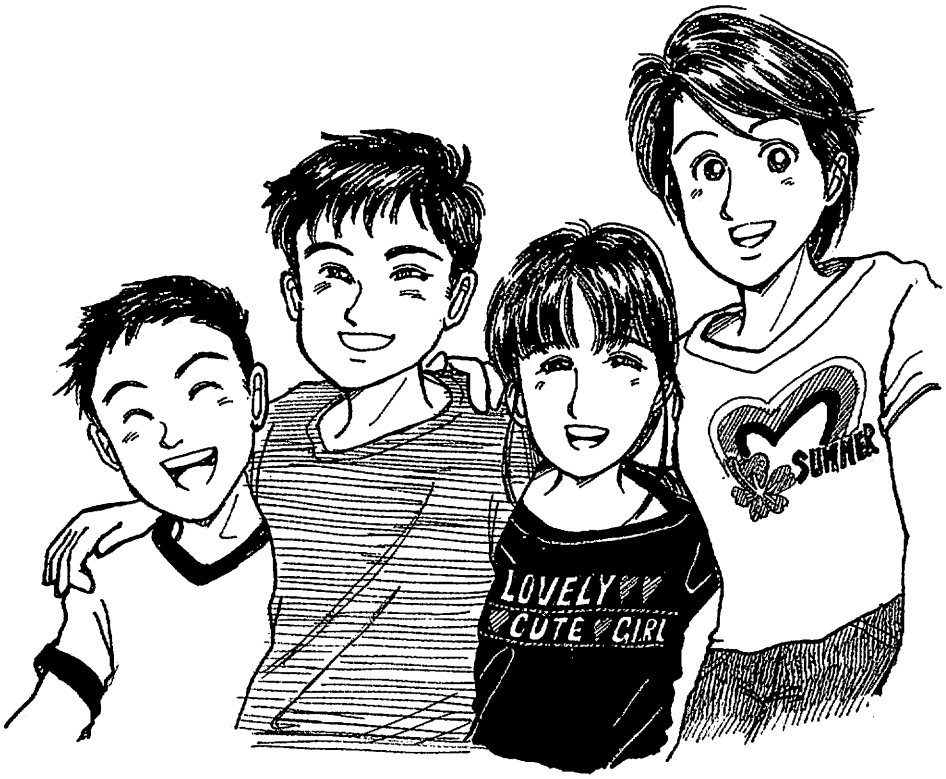
第５章

学級経営で悩んだとき

学級経営

Ｑ　＆　Ａ

こんな時どうしましょう・・・



第５章　学級経営で悩んだとき

Ⅰ　Ｑ＆Ａコーナー

Ｑ１:席替えにはどんな工夫をしたらいいですか？

子どもたちの大好きな席替え。いろいろなバリエーションをもっていたいものである。席替えには大きく分けると４つの方法がある。

①教師が意図的に決めるやり方

②くじで決めるやり方

③リーダーを決めるやり方（生活班と一緒の場合）

④その他

①の場合は、教師の意図が反映される。低学年や集団づくりの初期の段階、学期初めなどお互いがまだよく知らない段階などで行う。

なぜ、先生が決めるのかを子どもたちに説明した上で行う。

・体格、視力を考える・多くの人の長所を学ぶ・落ち着いて学習する･男女の仲をよくしたいなどの先生の意図を理解させる。

また、高学年にもなると決められた座席に文句を言う子も出てくるが、それに対してきちんと説明する準備も必要。

②の場合は、ある程度集団としてのまとまりがある段階、互いのよさがわかる段階、学年最後の時期のお楽しみ席などで行うとよい。

③の場合は、集団としてさらに高めたい段階、リーダーを育てる段階など主に高学年で行い、自主的に学級をよくしていこうとする雰囲気を育てる。

はじめは、学級をよくしていくためのリーダーとして立候補、あるいは選ばれた子どもたちと教師が話し合ってメンバーを決める。子どもたちだけで決めても学級運営が成り立つようになったら、子どもに決めさせることも成長のひとつ。この方法ができるようになったら学級経営は大丈夫。

④同性のグループを作って組み合わせる。半分子ども、半分教師の意図が反映される。まだまだ、工夫はある。

いずれにしても、席替えは教師の学級経営を反映するものである。明確な方針をもって臨むことが必要である。

Q2：子どもたちに連絡帳を書かせる時どんなことに注意したらいいですか?

①連絡帳を書く前に字の書き方をチェックする事を伝える。（ＡＢが合格Ｃは書き直す）＊先生が書いたものを試写させること。
②連絡帳を書かせチェックする。（A゜ＡＡやB゜などで評価を広げて次の日は丁寧に書くように意欲をもたせる。書き直した子には、「丁寧にかけたね。B゜」の一言を。
③上手に書いている子のを紹介する。（全体のレベルアップにつながる）
＊今日の出来事として短文を書くようにすると学校の出来事が伝わる。
はじめは、今日は休み時間〇〇ちゃんと〇〇をして遊びました。など形式をきめてあげると短時間で全員が書けるようになる。

Q3：子どもたちがなかなか静かになりません

①「話をします。」と宣言
②「いち、にの、さんと数えたらシーンとなりましょう。」と言う。
③「いち、にの、さん！」
④「心と体をこちらへ向けましょう。」と言い、おへそをこちらに向けさせる。
⑤「背筋を伸ばしましょう。」
⑥「話のあいだ、体を動かしません。」と，体の動きを止めさせる。
⑦話を早く終わらせる努力をする。

上手な聞き方　あ　い　う　え　お
あ　相手の目を見て
い　いつでも、どこでも！動きをとめて！
う　うなずきながら！
え　笑顔で
お　おわりまで

Q4：授業が始まるのに，席につかない子がいます。

① 時間を守り，着席できている子どもを温かい言葉で誉め，次も同じように守れることが素晴らしいことであると話す。
② 着席できている子どもに学習の指示をしてから，席につかない理由をひとりずつから聞く。優しい口調で話す。
③ 一人一人にこの次どうしたら席につけるかを考えさせて，言わせる。
④ 人間だから間違えてしまうことがあるけれど，何度も同じ間違いをしてはいけないことを伝える。
⑤ ２回目の時には，少し厳しい口調で話し，３回目があってはいけないことを伝える。
⑥ ３回目には，クラス全体の前で話さずに，個別に対応する。
⑦ 個別の対応をした時には，守れた時にシールなどを貼るような手だてを担任とその子ども二人で話し合い、約束をした上で，守れたことを喜び合えるような関係を作る。
⑧ クラスの子どもたちに，その子どもが自分を高めよりよく変わろうとしていることを伝えて、温かく見守ってくれることや，励ましてくれることを頼む。

Q5：暴れる子がいます。

① 体を抱きとめ、静かな声で「大丈夫!」と繰り返す。まだ暴れるようであれば，原因となっていることや原因の人から遠ざけて、さらに落ち着かせる。
② 落ち着いた後、暴れた理由があるならば、じっくりと口を挟まず聴く。
③ 子ども自身が、暴れることを心地よいと思っていないならば、そのような場面になった時の呪文を教える。

「落ち着け、落ち着け　１　２　３　４　５」

Q6:反発する子がいます。

①どういう気持ちやどういう考えで反発をしているのか話させる。
②途中で口を挟まず、うなずきながら「うん。それで？それで？」とあいずちを打ちながら聴いていく。
③聴いていて、子どもの気持ちのキーワードになる言葉があったら、その言葉を教師の側が鏡の役割になるようなつもりで、「・・・という気持ちだったんだね？」と返してやる。
④教師からどうしても伝えたいことがある場合には、「私はこう思うよ」というような私メッセージで伝える。

Q7:すぐ泣き出す子がいます。

①泣いている時は、泣きたいだけ泣かせておく。その時の状況でその場を離れたり、そばにとどまり背中をさするなどのよりよい判断をする.
②泣き止んで、教師の言葉が心に届くようになった時点で、泣いた理由を聴く。
③泣かなくても、思ったことを人に伝えればいいということや、どうしても泣きたければ泣いてもかまわないことを伝える。

Q8:教室を出て行ってしまう子がいます。

①教室にいるこどもたちへ、学習の指示をする. 職員室へ支援を頼むと共に報告する。
②繰り返すようであれば、学校職員全員の共通理解のもとに、そういった時に誰がその子どもの個別指導にはいるか?と言うことを決めておく。
③どんな状況の時にそういう事が起こるかということを、観察などから判断し、そのような状況になるべくならないようにしていく。
④保護者にも事実を伝えておく。

Q9:不登校の子・問題を起こした子への対応はどうしたらよいですか？

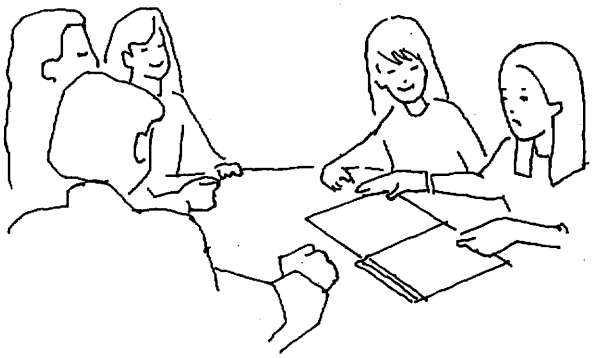
不登校の子に対して・・・・
①家庭との連絡を密にし、学校での出来事や学級の様子などを常に知らせる。
②お知らせなどのプリント類はその都度家庭に届ける。
③保護者（本人）との面談を重ねる。（カウンセラーと保護者･本人）
④カウンセラーとの連携

子どもが問題を起こしたときは・・・・(すぐに学年主任、管理職に話す)
①まず、事実を正確に把握する。
・複数の子がかかわっているときは個々に聞き取りメモをとる。
・聞き取り調査の結果に矛盾がないか確認する。
②事実を、学年主任、管理職に報告、今後の指導方針を確認する。
③家庭に連絡することを子どもに告げるが、子どもにも自分で話すことができるようにして帰宅させる。
④子どもが家庭に事実を話すことができる時間をとってから電話や家庭訪問をする。
⑤事実や指導したことを伝える。指導不足があったときは率直に謝罪する。今後の指導方針について伝える。家庭でもよく話し合いを持ってもらうようにする。
⑥次の日、子どもにどんな話があったかを聞き、家庭の様子をつかむ。
連絡帳や手紙などで保護者から連絡があったときは、すぐに対応するが、学年主任や管理職に相談して対応するようにし、一人で抱えこまないようにする。

Ⅱ　学級経営で悩んだとき　～座談会「今だから言える話」～

学級経営で悩んだり苦しんだりした経験について、語り合ってもらいました。

＜砂を噛むような毎日＞



司会者：今日は、お集まりいただきありがとうございます。さっそくですが、これまでに、学級経営に苦しんだり「教師を辞めたい」なんて思ったりしたことがあったらお話ください。

A先生：高学年のクラスで、「指導が指導として入らない」状態に砂を噛むような毎日だったことがあります。指導力不足と言われたこともあり、本当にきつかったです。

B先生：転入生の教科書に金魚が挟まっていたり、教室中が墨汁で汚されていたり…ドラマの世界にいるんじゃないかと感じるくらいたいへんなときがありました。

司会者：へ～え、それはすごい！　でも、指導が通りにくい子が増えてきたのは事実でしょうね。

C先生：私は中学年のクラスで、たいへんな状況でした。でも「１、２年生のときはそんなじゃなかった」と言われ、とてもつらかったです。

D先生：そういうときって、教室に向かう足取りが重いんですよね。学校に行くのもきつくなってきて、休日には求人広告を真剣に見ている…

C先生：そうそう。「え～い、もう辞めてやれ！」なんて、独り言を言ったりして。

＜第三者に悩みを聞いてもらえば…＞

司会者：みなさん、それぞれたいへんな思いをしていらっしゃるようですね。「指導が入らない」とか「子どもが思うように変化しない」というとき、どうやって乗り切りましたか。

A先生：もうこれ以上続けられないと思い、持ち上がれないと主張しました。でも、「持ち上がれない」と伝えたら「責任放棄だ！」という同僚からの非難が返ってきて、これがつらかったですね。

D先生：私は、「これこれこういう状態だ」ということを、思い切って第三者に聞いてもらいました。同僚の先生とはまったく違う角度からのアドバイスがあって、ほっとしました。

司会者：たとえばどんな？

D先生：奇声を発して授業を妨害する子に困っていたとき、スクールカウンセラーに相談したら「奇声は自分を守るための行動。そうやって声を出して心のバランスをとっているんです。」と言われました。「この子も苦しいんだ」って思ったら、なんだか急に気が楽になっちゃいました。

A先生：なかなかそういう発想って、できないですよね。

D先生：自分だけで煮詰まっていたら無理ですよ。考えが堂々巡りして、気がついたらさっきとおんなじことを考えていたりするんです。

B先生：それをだれかに話してしまうと、案外気が楽になれる。

C先生：それに、新しい見方でクラスを見直すきっかけにもなるし。

司会者：なるほど、第三者に話すって、いいことですね。

B先生：話すだけで、がんじがらめになっていたことが整理されるんですよね。

D先生：そうそう、そんな感じ。

E先生：とにかく利害関係のないだれかに話せば、それだけで気持ちが軽くなるし、ときには思わぬ道が開けたりすることもあるんじゃないですか。

司会者：安心して、つらいことや弱い部分を話すことができるからでしょうか。

C先生：だれでも自分の弱みは見せたくないから、人に話すのをためらう気持ちもあるんですけど。

E先生：でも話してみたら「なんでこんなに悩んでいたんだろう」って急に前向きになれることって、よくあるんじゃないかな。

＜困ったときの学校体制＞

司会者：悩んでいることを思い切って誰かに話せるだけでなく、それを受け止める校内体制ができていることも必要だと思いますが。校内体制としては、どんなことが大切なんでしょう？

B先生：私の学校では、暴言を吐いたり教室をエスケープしたりする子が学年に２人ずつぐらいいます。私はＴＴという立場で、いつでも支援できるようにスタンバイしています。

C先生：職員室にいる先生が、いつでもすぐに駆けつけられるような体制ができていると、それだけでも気持ちが楽になるでしょうね。

D先生：うちの学校では、“ヘルプカード”というものを作ってあって、困ったときにはそれをだれかに職員室や保健室に持たせるんです。

司会者：そうするとだれかが、すぐに来てくれるんですか？

D先生：そうです。でも実際はあまり使わないですけどね。そういうのがあるだけで安心できます。

A先生：校内体制っていっても、うちの学校には特別なものは無いから、困ったときも相談しづらいです。

E先生：今はもう、一人で学級集団を見るという発想は変えないといけないですよ。学校として学級を見ていく体制をつくらなければ…

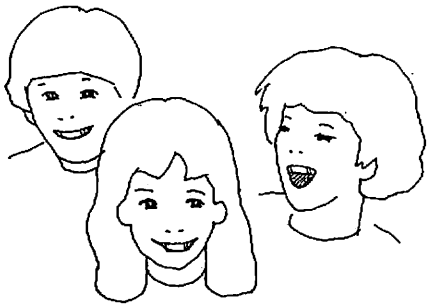
B先生：明日は我が身ということを、みんなが自覚しないと。

E先生：だれかの指導について、影でコソコソああだこうだと言っているようなことがあると、どうしても一人で抱え込まなければならなくなるでしょ。そういうのを変えなくちゃ。

司会者：校内体制をとるとき、大切なことはなんでしょう？

A先生：とにかく、批判的な目で見ないこと。批判の目はつらい。

B先生：そのためにも、日頃からどんどん、校内に情報を発信するといいですよ。問題がこじれる前に校長先生に話すことも大切だと思います。



E先生：いざみんなで関わろうとしたとき、チームとして取り組む姿勢を持ちたいですね。

司会者：そのあたりをもう少し詳しく…

E先生：たとえばあるクラスに複数の教員が関わるような場合、どの子にどんなふうに関わるのか、同一歩調を取るようにしないと。

D先生：ある先生は厳しくして、ある先生はやさしくしていたら、なかなか良い変化が見られないでしょうね。

C先生：どの子にどんな支援をしていくのがいいのか、担任の先生を中心によく検討したいですね。

＜抱え込みすぎないで＞

司会者：終わりに、苦しんでいる先生へのアドバイスをひとことお願いします。

A先生：一人で抱えてがんばりすぎると、プツンと切れちゃうから気をつけて。

B先生：愚痴でも何でも、小出しにしていきましょう。

C先生：「情けは人のためならず」でしょう。お互いに助け合える雰囲気を、ふだんから作っていきたいですね。

D先生：私の場合は「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」かな。いろんな人に話していくと、思いがけない解決方法が見つかることがあるはず。

E先生：「ピンチはチャンス。」苦しい場面から得るものもたくさんあるから、ピンチが来たら「チャンスだぞ！」って思うことにしています。

司会者：なるほど。問題を抱え込みすぎないようにすれば、ピンチがチャンスに変わるきっかけをつかめるかもしれません。気の持ち方ひとつで、なんとかなることも少なくないし、時間が解決してくれるっていうこともありますよね。

「学級経営上のピンチに出会う可能性は、だれにでもある」ということを自覚すること。そして、ひとりで悩まない、ひとりで悩ませない。そんな姿勢を持つことが大切であることがわかりました。

みなさん、今日はありがとうございました。

コラム６

卒業生からのメール

布団に入る前に毎晩することがある。それは、パソコンのメールを開くこと。13歳から32歳までの教え子たちが送ってくれるメールを読むことが、何よりの楽しみだ。

「生徒会選挙といえば、今年、□中の一年庶務の立候補者が、枠が二人なのに対して４人もいるんです！すごいですよね～。○○小からは、トミーとさっこと・・・もちろん私も立候補しました。あと、Ｄ組の女の子です。

木曜日に放送演説があって、とっても緊張しました。後は、２９日に立会演説会があり、投票です。生徒会に入れる確率が50%ということもあり、すごく怖いですが、私のクラスの皆が、応援してくれているので頑張りたいと思います。

「今、夜晩から帰ってきました。お気に入りのＤＶＤを送ります。聴いてみて感想を聞かせてください。」

「今日、△男がキレました。今までずっとよかったのに、違う小学校から来たヤツらにからかわれて暴れました。ほくと××で止めたけど・・・。やっぱり先生がいないと△男はダメみたいです。」

年度が代わるたびに、新しい子どもたちとの出会いがあり、別れがある。その年その年で、子どもたちと喜怒哀楽を共にする。そんな繰り返しが当たり前だったが、最近は、メールという文化のおかげで、学校の外の世界を感じることができるようになった。

年代ごとの感じ方や悩みに触れることで、自分は確実に年をとっているという実感を味わう。そして、彼らが今も自分を「先生」としてみてくれていることに、感謝と同時にずしりと重いものを背負う。

１５年以上前だったか。まだ携帯がなかった頃、何度か教え子から相談を受けたことがある。そのときは、目の前の子どもに一杯で、手紙を一度書いただけだった。会うことも、励ますこともできないまま、その子は大学不登校になり、今は分からない。また、就職してから精神的に参ってしまった子もいたが、自分の仕事の忙しさと遠距離を言い訳に、逃げてしまったこともあった。

もちろん、自分の小さな力で、立ち直らせることができたとは思っていない。でも、あの時、その子の苦しみを聞くことはできたはずだという後悔が、ずっと消えない。

担任の喜びと重さは、表裏一体のものであるのだろう。だからこそ、自分が担任であったという事実から、もう逃げたくはないと思っている。

第６章

私のアイディア

第6章　私のアイディア

Ⅰ　授業で使えるアイディア

1．授業をスムーズにスタートさせたい時

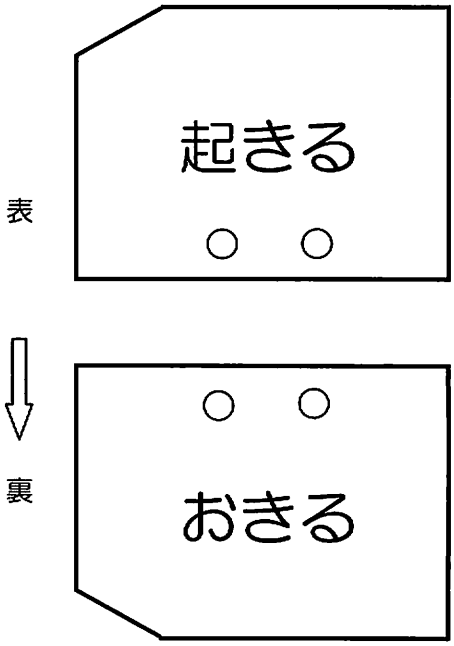
～フラッシュカードを使って一気に授業モードへ切り替え！～

休み時間後の子どもたちは、落ち着きがない。余韻を引きずっておしゃべりがうるさかったり、道具が準備ができていなかったり・・・。中には平気で遅れて入ってくる子もいる。「静かにしなさい」「○○さん教科書を出しなさい」と言っているうちに時間も少しずつ無くなっていく。「チャイムと同時に授業を始めたい。」そこでこのようなアイディアを使ってみた。

①八つ切り画用紙の四分の一のサイズのカードをたくさん用意しておく。角は右図のように切り落とす。

②一枚のカードに漢字を書き裏には読み仮名を書く。

③カードリングでまとめ、子どもたちにテンポよくめくっていきながら漢字を読ませる。切り落とした部分が互いちがいになるように重ねるのがみそ。素早くめくることができる。



★パンチで穴を開け、重ねる

チャイムが鳴ったら、「はい。読みまーす！」と言ってどんどんめくり始める。子どもたちは元気に読み始める。すごい集中力である。遅れてきた子もあわてて座り、読み始める。「２コ間違っちゃった。」「先生またやって！」などの声も。まだ習っていない漢字も少し先取りして読ませるのも効果的かと思う。

2．家庭学習の励まし方・児童名表示の工夫・離れていた時間を共有するために

家庭学習の励みの一助として

単調になったり、途中で持続する事が難しくなったりする漢字ドリル練習・計算ドリル練習・日記などノート一冊書き終わった時に、達成感・満足感を味わい、次への取り組む意欲を再度持続させるために、リボンを結んで教室内に飾っている。

漢字ノートには赤リボン・計算ノートには緑リボン・日記帳にはピンクリボン（色はなんでもＯＫですが）と決め、終わった子どもが自分の両手人差し指をまっすぐにし、その指で各テープを蝶結びにしたりぼんを作り、ノート表紙にとめて、黒板の上・廊下側の窓の上・後ろ黒板の上などに掲示する。そのリボンを作る時に、子どもと会話をしたり、ノートの一番最初のページを振り返りながら、字形・練習方法・心情などを再確認したり、学習への取り組み方・継続の大変さ・大切さを話し合ったり、子どもと触れ合う一助の時間となっている。

児童の名前表示

進級したり、クラス替えがあったりした新学期の初日、子どもたちは「どんな子が友だちになるだろう・同じクラスになるだろう」と、期待と希望を持って、教室の中に入ってくる。その時に、事前に子どもたちの名前だけ短冊に書き出し、黒板に掲示しておく。そして、自己紹介をする時と同時に、「似た漢字・名前」を確認し整頓して張り替え、掲示する事により、子どもたちも自分と同じ名前や漢字を使った児童に親近感を持ったり、仲間意識を持ったりし、またその名前にこめられた保護者の方々の願い・思いを考えられ、感じられ、一人一人の互いの個性を尊重しあう雰囲気作りの一助として、良いスタートが出来る。

離れていた時間を共有するために

長い夏休みの間、せっかく１学期に親しくなった友達と子どもたちは離れた時間を過ごす。ちょっぴり照れくさそうな顔で９月１日、互いに歓声を上げながら駆け寄っていく。そのときお互いにどんな時間を過ごしたか、互いに離れていた時間を共有するために、長い夏休みに体験したこと・想い出などを一枚の新聞にまとめる。写真・パンフレット・新聞記事なども活用すると、思いが伝わり、読みたくなる新聞に仕上がる。新聞作りは効果的である。

Ⅱ　生活指導で使えるアイディア

1．セルフコントロールの力をつける「テレパシー」

「ほめられるからやる」だけでは、いつまでたっても自発的な活動が広がっていかない。子ども自身が自分をほめられるようにしたいものだ。

「ほめる」という行為を、教師の手から子どもの手に移すための簡単な方法がある。伝えたいことをわざと伝えずに、子どもに考えさせるのである。

「〇〇さん、いいねえ。」に続き、「テレパシー送るよ。ピピピ…」と言いながら、眉間に立てた人差し指を子どもの方に向けて少しずつ近づける。そして、「何を送ったかわかるかな。」とたずねるのだ。（＊「ピピピ」に続いて「今、私は怒ってるんだけど、何を言いたいかわかるかな？」と厳しい表情で言えば、叱る場合にも応用でる。）

テレパシーを送られた子どもは、少し考えてから「わかった！」とうれしそうな顔をする。必要に応じて、「じゃあ、私が何をほめたかったか、声に出して言ってごらん。」とか、「テレパシーで送り返してみて。」などと伝える。こちらが伝えたかった以上のものが返ってきたり意外な反応があったりして、ひとつほめようとしたことが何倍にもなってふくらむことがある。

「心の中に花マルつけてね。」といった言葉をつけ加えてもよい。教師がほめることから、子ども自身が自分をほめることへの転換になる。

この方法は、セルフコントロールの力（特に自己観察と自己強化の力）を伸ばすはたらきをする。

①自分の行動にしっかり目を向ける。

②ほめられる対象となった行動を言語的に振り返る。

③その行動を自分でも「よいこと」としてほめる。

簡単な指示だけで、このような一連の流れを導き出すことができる。

また「テレパシー」は、学級全体にはたらきかけられる点でも効果的だ。たとえば「みんな、よくがんばったね。みんながんばったことについて三つ、テレパシーで伝えますよ。ピピピ…」（しばらく間を置いて）「では伝わった人、手を挙げてください。」などと言う。

このようにすれば、学級全員に対して同時にはたらきかけることになる。伝わったことを発表してもらうと、三つどころか実にさまざまな答えが返ってくるだろう。

2．気持ちを内に向けさせる言葉「どこがムカツクの？」

出張である学校を訪問したとき、廊下で偶然に次のような場面を目にした。

子ども「そんなこと言われると、ムカツクんだよな！」

先生　「私の方がムカツイてるわよ！」

子ども「オレの方が、もっとムカツイてるんだよ！」

先生　「私の方が、もっともっとムカツイてます！」

子ども「オレの方が、もっともっともっとムカツク！」

今にも殴りかからんばかりの子どもと、それに真正面からぶつかっている先生の姿にハラハラさせられた。背景の分からない者から見れば、まるで子ども同士のけんかのようなやり取り。けれども、カッカした状態にあるときには、程度の差はあれこのようなやり取りになってしまうことが少なくないだろう。

攻撃的な子どもたちが必ずといってよいほど口にする「ムカツク！」という言葉。どう切り返すかで、その後の展開は大きく変わる。

「ムカツク！」に対しては「私の方が…」などと反撃せずに、「どこがムカツクの？」と、さりげなくかわす姿勢を持ちたいものだ。「どこが？」は重要なポイントである。「何に？」と言ってしまっては、ただでさえ教師の方に向いている攻撃性を増幅させてしまう。言語化という観点からは意味があるだろうが、わざわざ余計な刺激を与えることはない。

「どこが？」によって、子どもは予想外の教師の反応に戸惑いつつ、自分の心の内に目を向けることになる。外に向かっていた感情は一時的に内に向かい、相対的に攻撃の度合は緩和されるはずだ。

「どこが？」にはその子のことを心配しているようなニュアンスもあるので、攻撃性を和らげるのに一石二鳥の言葉と言えるだろう。

コラム7

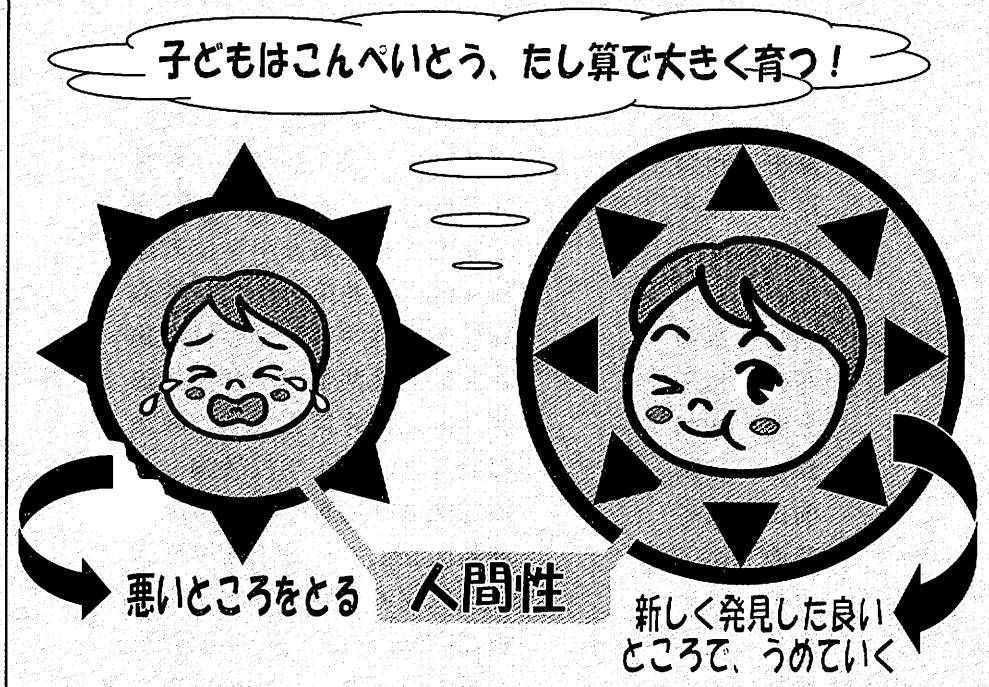
子どもの見方・考え方の改革を！

教師の資質の改善が求められている。教師自らが学級の問題を自分の問題としてとらえ、今までの子どもの見方・考え方を変えていくことが大切であると思う。

「たし算で考える」とは、子どもをありのままに見て、よいところを見つけ認めることから始まる。そして、子どもの一人一人の心の安定と主体的に取り組もうとする気持ちを育てることにつながる。したがって、教師が描いた理想の子ども像を、教師の価値観の中で評価することではない。

こんぺいとう理論

図解



	ひき算	たし算
子どもの観方・考え方	・ひき算 理想の子ども－現実の子ども （マイナス思考） ・悪いところをなおす ・学級担任の価値観で観る ・１００点を基準にする	・たし算 現実の子ども＋よいところの発見 （プラス思考） ・よいところを発見する ・ありのままに見る ・０点を基準に積み重ねる
指導の方向性	・外面を大切にする ・修正	・内面を大切にする ・創造

あ と が き

手軽に活用できる「学年・学級経営ハンドブック」を作成できたらと願い、時には台風接近のニュースを聞きながら会議をしたこともありました。思い返すと編集をしている過程が、学級経営の研究そのものでした。

この冊子は、　６章に分かれています。第５章に「学級経営で悩んだとき」の章を設けました。時代が大きく変化する中で、学年・学級経営で躓いたり悩んだりしている経験を多くの教師がしています。中には、教師を辞めてしまった例も聞いてます。第５章を編集するにあたり、今だからこそ言える話を率直に語り合いました。この冊子を紐解き「もうちょっと頑張れるかな」「攻撃的になっている子どもは、自分を守るため」「この子も苦しいだな」「保護者も大変だな」「時間が解決してくれることもある」など何かヒントになればと熱い思いで、まとめていきました。

今、学校教育を取り巻く環境が大きく変化しています。基本の考えは大切にしながらもこの状況に対応する学年・学級経営の研究を推進することが必要です。少人数指導やティームティーティング、ゲストティーチャー、教科担任制など組織的に対応することが必要になっています。学級経営とともに学年経営も大切な時期ですので、「学年・学級経営ハンドブック」にしました。

このハンドブックを手元に置き、少しでも時間のある時に目を通していただき、担任になったばかりの先生方、ベテランの先生方に参考にしていただければ、編集に携わった者として望外の喜びです。

最後になりましたが、これまでご指導・ご助言をいただきました多くの先生方、編集委員を気持ちよく送り出してくださった該当校の校長先生をはじめ諸先生方に感謝申し上げます。有難うございました。

学年・学級経営ハンドブック

平成１７年１１月２５日　　初　版
平成２０年　１月２５日　　第２版
平成２０年１２月　４日　　第３版
編集・発行
東京都小学校学級経営研究会　会長　丸山久美子

印　　刷　　㈱三誠社
ＴＥＬ　03-3812-0241

東京都小学校学級経営研究会では、学級経営を以下のようにとらえています。

〈学級経営の定義〉

学級経営とは、学校の教育活動を達成するための学級を単位とする教育活動の計画、実施、評価に伴う学級担任のすべての活動である。

その内容は以下のように多岐にわたっている。

① 学級経営計画 …… 学級目標の設定・学級経営方針・学級組織・評価と改善など

② 学習指導 …… 学習適応能力を高める指導・学習に関わる人的物的環境の整備 学習組織など

③ 生活指導 …… 児童理解・教育相談・学級の雰囲気の醸成・教師と児童及び児童同士の人間関係づくり・学級集団の形成など

④ 進路指導 …… 在り方や生き方の指導・進路相談など

⑤ 教室環境 …… 教室環境の構成と整備・学習環境の設定など

⑥ 学級事務 …… 在籍に関わる事務・成績処理・会計・学級通信 保健健康に関する事務など

⑦ 連　携 …… 保護者やＰＴＡそして地域との連携・学年や学校との連携など

小学校学習指導要領解説　総則編　（平成20年度6月）　Ｐ６６・６７より抜粋

３　学級経営と生徒指導の充実（第1章第4の2（３））

（１）日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童生徒の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること。

生徒指導・・・児童の人格を尊重しながら、規範意識をはぐくむなど社会的資質や行動力を高めるよう指導助言すること

その基盤は学級経営　学級経営の全体的な構想を立てる必要がある。

〈学級経営で重要なこと〉

○確かな児童理解・・・日ごろのきめ細かい観察を基本に面接など適切な方法を用いて、一人一人の児童を客観的かつ総合的に認識すること。日ごろから児童の気持ちを理解しようとする学級担任の姿勢。愛情をもって接していくことが大切

○存在感を実感できる場

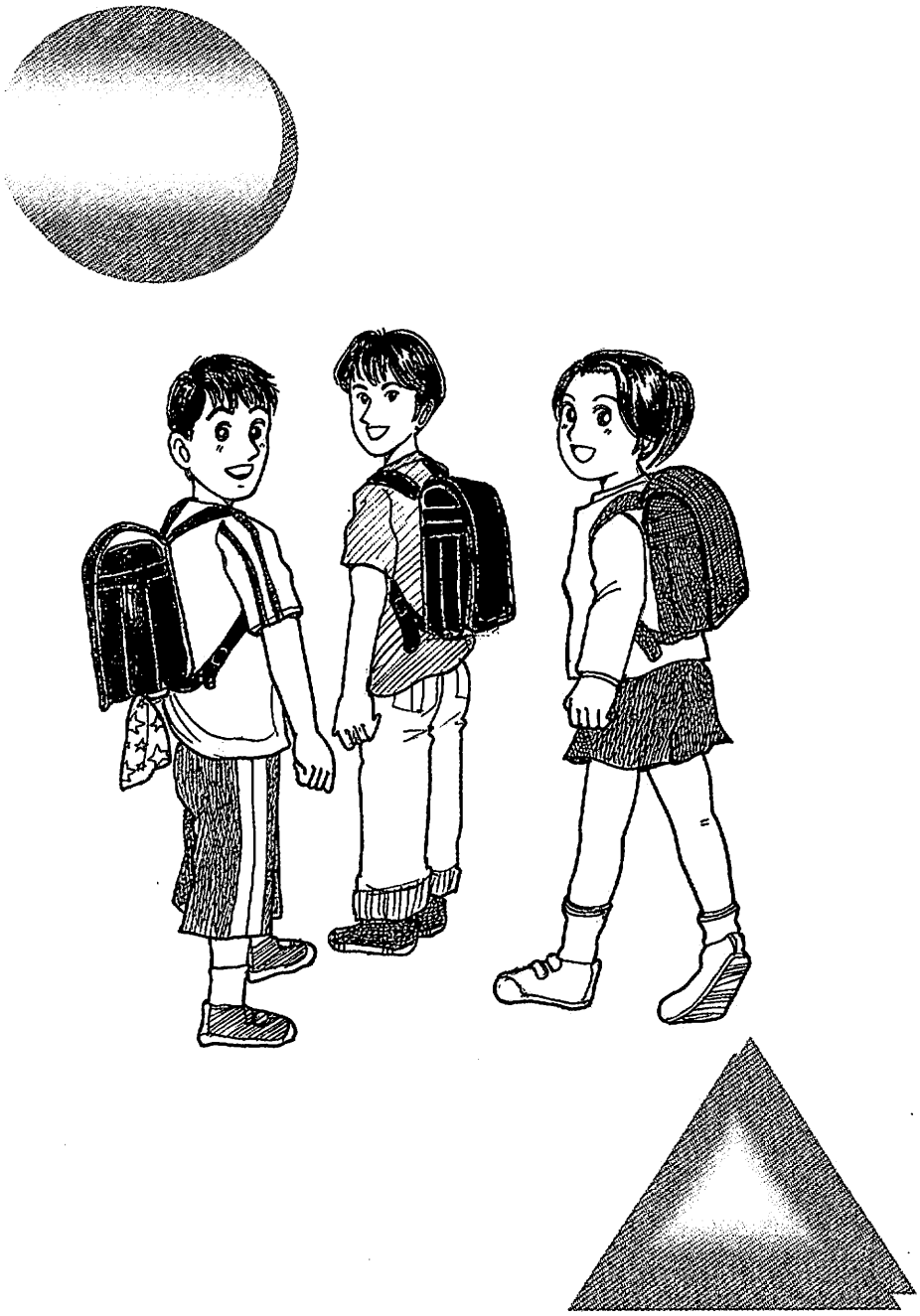
規範意識を育成するために、必要な場面では、毅然とした対応を行うと共に、学級の風土を指示的な風土につくっていく。

○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

・分かる喜び→学習意欲　　・家庭学習を含めた学習習慣の確立

・学ぶ意義を実感（知識・技能の活用を図る学習活動、キャリア教育）

○開かれた学級経営の実現　　他教職員との連携、家庭や地域社会との連携



学級経営ハンドブック作成委員会